

中世曹洞宗における本参資料研究序説（五）

——夜参と三位の透句を中心として（中）——

飯塚大 展

一、はじめに

前稿においては、切紙伝承における三位の本参の起源と相承の系譜、及び本参資料における夜参の渊源と透句の体系について、龍泰寺所蔵『宗門之一大事因縁』と叡山文庫所蔵『宗門密参』（眞如藏二一〇九）とを通じて考察を加えた。¹三位関連の記事は、本参・切紙資料のみならず、語録抄、代語・代語抄等においても散見するものであり、公案の階梯、或いは公案解釈のキータムとして用いられている。

本稿では、今まで夜参と本参との定義を留保したまま論を進めてきたが、現状では一応広義の本参の内に夜参は包含されるものとして位置づけたい。既に円応寺所蔵『靈機宏聖道三位之次第』において触れたように、或る一定の時期、夏安居・冬安居に参すべき体系として夜参の透句があった。これも前稿において触れたように、比較的早くから叢林行事として定着を見たと思われ、たとえば六地藏寺所蔵『七夜話』（珊瑚海）などにおいてもその点は確認できる。

勿論、中世における林下曹洞宗各派の地方拠点寺院では、必ずしも大叢林ではなかったと思われるが、それぞれの清規にもとづく叢林行事が実践され、特色ある修行の体系とカリキュラムとが整備されていたものと思われる。夏冬両安居中に参究されたのは、一つには今日語録抄として現存する『人天眼目抄』『碧岳録抄』『無門関抄』等があげられるが、同時に入室参禅はその間も恒常的に行われていたと考えられる。その行事の一つとして実践されたのが夜参であった。これらの点については、今後資料の読解を進めながら考察してゆきたいと思っている。

さて、これら各派毎の教学的背景を端的に示すのが「参話目録」であり、それに相応する形でまとめられたのが本参資料である。これらの「参話目録」がいつ頃成立したのか、その原初的形態とはいかなるものであったのかについては、資料の制限もあり未だ不明とせざるを得ないが、概観すれば応仁・文明の乱前後の時期に或る程度まとまったものが成立したものと推定される。参話の一つの形態として、ほぼこの時

期に端を発すると思われる夜参は、公案参得の体系を支える一つの大きな柱であり、その内容の代表的なものが三位と言われる「透句（通句）」の体系であった。「夜参」に対するものとして「朝参」「暁参」と称されるものがあり、参話目録においては夜参の透の記載が見られるのに対して、「朝参」の語は殊更に記載されることが少ないことから、原則的に「本参」の主なものはこの「朝参」であったと考えられる。

一方で、十六世紀後半から十七世紀前半に至る時期に成立した本参資料を垣間見るとき、一様に各派毎の参すべき公案の数量は、その前代に比して飛躍的に増大している。それ以前には了庵派下の各派の本参の体系はそれぞれに独自色を表に出し、他派との違いを強調する傾向をそこに読みとれたのだが、やがてそれらの本参はそれぞれの派祖たちの解釈（下語・代語）が固定化すると共に、一方でそれらの解釈を並列し集積してゆく形態の本参が成立してくる。これらの変遷についてはやはり今後の課題とせざるを得ないが、本参資料における公案体系の中に三位の透句や夜参の透句は内包されていたのも一つの方向性であったと思われる。

本稿においては、前稿同様、叡山文庫所蔵の本参資料を用紹介しながら、論を進めてゆきたいと考えている。

二、叡山文庫所蔵『曹洞三位秘傳』について

『曹洞三位秘傳』はその書名が示すとおり「曹洞三位」説にもとづく本参資料であり、その三位の項目をあげれば以下の通りである。疑問を抱くのは、(20)と(29)の項目が同じであるが、首句をはじめ内容は異なる。

曹洞三位。

- (1) ○死活當頭、(2) ○点凡入聖ノ自己、(3) ○自己ノ点処、(4) ○自己不点、(5) ○自己ノ醒處、(6) ○自己目前ノ兩(擘脱カ)ノ隔リ、(7) ○自己目前一枚、(8) ○自己真照、(9) ○毫釐功ノ迷、(10) ○智不到ノ一句子、(11) ○智不到功位ノ迷、(12) ○清イ白ッ圓ン明ノ智不到、(13) ○智不到ノ点処、(14) ○智不到ノ不点、(15) ○智不到不点ノ々、(16) ○智不到異弁眼、(17) ○功位路玄ン通処、(18) ○那邊承當、(19) ○那邊透過、(20) ○那邊退得這裡行履、(21) ○阿誰勘弁、(22) ○那時三主ノ勘弁、(23) ○那時窮極、(24) ○位裡点側、(25) ○裡頭却来、(26) ○偏正一致、(27) ○目前ノ点側、(28) ○外頭却来、(29) ○那邊退得這裡行李、

次にその書冊形式について、略述してみたい。

- 一、冊数 1冊
- 一、料紙 楮紙

一、大きさ 縦23・8センチメートル、横17・9センチメートル

一、装釘 袋綴

一、標題 「山門東塔南谷 淨教房／眞如藏 三百

十一以／曹洞三位秘傳」(打ち付け)

「曹洞三位秘傳／草屋僧／快闇之」

一、請求番号 眞如藏・二四・三八・一五三七

一、枚数 改表紙、14丁(本文13丁)

一、行字数 每半葉10行、1行26字前後

一、刊写 写本

一、書写年 寛永拾七(辛巳)(一六四〇)拾月吉日

一、筆者 未詳

一、識語等

「大成山普門院月和尚ヨリ如此大事之唱也／近頃之□□御座候。任尊意写申候。

定而書落など可有候／刹角被遊□不申候

て御用立申間敷候以上／寛永拾七年拾月

吉日賀州金沢之住人／書之道白／理性坊

様」

本書は、延暦寺東塔実藏坊再興第二世浄教坊実俊大僧正(六一七～一七〇二)によって蒐集書写された眞如藏書の一書であり、理性坊の依頼により書写寄贈されたものと思われる。

又、本書はもと快闇所持本であり、識語から普門院開山月江正文派下に相伝されてきた本参であることがわかる。又、

或ハ雲門ハ日々好日、玄沙ハ元是レ謝三郎、ト落着タガ、本來面目ダ。此句ヲ、一州派デハ、智不到ノ処ニ用ル。

(2ウ)

とあり、一州派との比較がなされていることから、一州派以外の派の相伝と推定される。叡山文庫所蔵の禅籍、とくに禅籍抄物については、既に金田弘氏の論攷があり、本稿もそれによるところ大であるが、曹洞宗派下に相伝されていた本参や臨済宗大徳寺派系の抄物が収集された経緯と目的については、天海大僧正による仏教書蒐集の意味を含めて、今後の課題としたい。

本書の形式に関連して、「毫釐功ノ迷」の項目を一例として取り上げてみたい。

○毫釐功ノ迷ヲ。代、自己一色テ走。師云、ナントシタ

自己一色テハ在ルゾ。代、雪橋林覆同一色キ。師云、其

テ迷イ羊ヲ。代、明月夜疑李花天。師云、今一ツ一句ヲ。

代、地疑明月夜、山似白雲朝。心、雪ト云ガ、自己ノ功

橋ト云ガ、智不到入門也。雪ガ覆エハ、同一色テ、差別

ハセラレヌ。処ガ、迷羊也。雪ト橋林トハ、毫釐ノ差在

レトモ、同一色ト見レバ、差ハ無キ也。爰ヲ、一色ノ迷

ト云也。句モ、明月ハ圓欠ガ在ル間タ々、呈ニ、尽シテ

自己ノ功也。李華ハ、天然不尽テ、智不到ノ功ガ、(5オ)毫釐ノ差ダ。在レトモ、疑ト云ガ、迷イ羊也。今一ツノ句モ、疑ト云ガ、迷イ羊也。白雲ハ、尽也。是ガ、毫釐ノ差也。疑ト云イ、似タリト云ガ、迷イ羊也。

傍線部分は、師家による問いかけ(拶語)であり、波線部分は学人による代語の提示である。所謂師学の間における問答形式を踏襲しているが、大応派下(大徳寺派・妙心寺派)の密参録においても、公案の本則(本文もしくは公案名)、拶語、下語、弁(妙心寺派では平話)と言った形式を取ることが多い。林下道元派下の曹洞宗の本参においても、この形式に類似しているものがあり、例えば叡山文庫所蔵『碧巖休岱記』などがそれにあたる。³⁾ここでは、師資問答の後に「心(或いは心得)」として、三位の各項目の位置づけを代語(下語)との連関を通して敷衍している。

内容的に興味深いのは、書写寄贈した曹洞派下の僧侶の意識である。曹洞宗と臨済宗との解釈上の比較といった意識があったと思われる。「偏正一致」の項には、

爰ノ當人ヲ、張三李四ヨ。アノ肚裏ヲ取ツテ、那人ニ齊ト云タゾ。亦、洞上瞎眼耳鼻舌身意底ノ人トモ云イ、一種平懐泯然自尽肌ノコトヨ。濟家デ、赤肉無依真人、瞎ツノ人ノコトヨ。

臨済宗の解釈を意識した洞門抄物は少なくないが、叡山文

庫所蔵のものにも自派の優位性を主張する傾向が強いものが見られる。

三、「夜参花木之透」について

前述したように、本参資料の大部なものへと変化していった一例として、天真派に属する長興寺所蔵『上々之参得』を取り上げたことがあるが、⁴⁾本書は了庵派下の各派の本参が参看されており、その影響下に成立したものである。その冒頭には「無極的伝之夜参」(1オ〜3オ)が記載され、以下本参の項目にも「夜参花木之透」「九愁意」と言った夜参の項目が続き、更にこのほかにも三位関係のものとしては、「自己三提」「三位之透之参(密山派一透之参禅)」が収載されている。前稿において述べたように、夜参は必ずしも三位の体系に限定されないが、多くの比重を占めるのも事実である。以下に、密山派真如寺に相伝された「夜参花木之透」を取り上げてみたい。三位と称してはいないが、三位の透句として機能してきたものである。

鉄樹放^ス開^ハ花^ヲ。代云、師ノ前ニ到テ、師ノ面ト我が面ヲ打合テ、一喝ノ、背エ倒ラルル也。師云、其レワ何ントテ。代、眼玉ガ、幕暗ニ成ル末境、心花放開シ羨テ走。師云、的句ヲ。代、風定花猶落、鳥鳴山更幽。師云、風ノ定羨ヲ、花ノ落羨ヲ。代、師ノ喉ヲジツトシメテ、膝ノ下ニ

布也。師云、句ヲ。代、破断ノ腰身、不通凡聖。

竹寺閑花——落——色ヲ。代云、過キ行ク春ルヲ問人ガナケレバ、落花苔莓ヲトザシタ迄テ走。師云、其ワ何ントテ。代云、從古履声ノ到又処テ走。師云、其レワ何ニタル境界ヲ云タソ。代云、無人ガ、能到テ走。師云、其ノ心ヲ。代、落花苔莓ガ戸指シテ、足向ケセラレヌ処テ走。師云、的句ヲ。代、門庭無拂人。

宝殿人不見、含花白鳥空ヲ。代、從古尊貴沙休ワ走ヌ。師云、何ントテ尊貴沙休ワ無イソ。代、孤単元年へ正中来ノ己ノ正テ走。師云、其ノ心ヲ子細ニセヨ。代、正不偏々不在正、如不到、臣ノ主テ走。師云、猶ヲモ子細ニ。代、尊貴不施設、誰人得姓名。師云、其ノ句ヲ説破セヨ。代、尊貴ノ在リ、姓名ヲ得ルワ、臣ニ對スル主テ走。代云、花鳥ノ筋目句ヲ。代云、空殿寂々ト人不見、從古白鳥花含不獻。

江国春風——起。師云、春風ノ定ヲ。代、祖風テ走。師云、祖風ノ立処ヲ。代云、野老山老境界ガ、法眼ノ家デワ、本有ノ太平テ走。師云、鷓鴣ノ定ヲ。代、野老村老テ走。師云、其レガ何トテ、深花裡テワ在ルソ。代、仏祖ノスキクワノ入ラヌ処テ走。師云、鷓鴣ノ鳴キ羨ヲ。代、二郎ヨツ、太郎ヨツト鳴テ走。師云、徹処ヲ。代、無明実——生。亦類則ヲ。代、春力不到処、古樹亦生花。

師云、春夏ヲ云エ。代、悟リテ走。師云、春力不到処ヲ。代、野老村老ノ境界テ走。師云、其レガ何ントテ、古樹テワ在ルソ。代、佛祖ノ鋤斧ヲ受ヌ境界テ走。師云、花ノ生ジ用ヲ。代、二郎ヨツ、太郎ヨツト生ジテ走。師云、句ヲ。無明——生。亦類ヲ。代、一種在荒田、不レ耕苗自秀。師云、一種定ヲ。代云、本性テ走。師云、荒田ヲ。代、野老村老ノ境界テ走。師云、不耕処ヲ。代云、釈迦達磨ノ鋤犁ノ入ラヌ処テ走。師云、秀用ヲ。代、二郎ヨツ、太郎ヨツト秀テ走。師云、法眼ノ家ヲ、何ト合ヌ境界ト、一般テ走。師云、句ヲ。代、子々孫々代々。當処即是鳳凰城ヲ。大口忘然ト、坐ノ我ヲ指、是這个ト拳ス也。師云、其心ヲ子細ニセヨ。代云、當頭ニ在ル異ナ主テ走。師云、句ヲ。清波不犯意自異。師云、其ノ上ニ句ヲ説破セヨ。代、忘然タル當頭ガ、清波不犯、其二在ル異ナ主テ走。師云、的句ヲ。代、不離當処、透入真源。師云、花鳥筋目句ヲ。代、不離花下路、便見冬中春。師云、亦類則ニ、智不到処一句道、一句當機便到家。代云、大口忘然ノ打睡ル也。師云、句ヲ。代、清波不犯——異。師云、其ヲ子細セヨ。代、智不到二到テ、到夕ハ知り走ヌ。師云、猶ヲモ子細ニ。代、智不到二到テ、到夕ト知ラヌ時、異ナ境界テ走。師云、句ヲ。代云、宿

路——金、宮城——花ヲ。師云、子細ニ。代云、常憶々々。不種梧桐兔ル鳳来ハト云タル人ヲ。代云、ドコデモ別ノ処エ行テ、忘然トノ居ル也。師云、其レワ何ントテ。代、主ノ沙汰ガナイソ。代、全ク梧竹ヲ不種、全出世ヲ子ガワヌ時、沙汰ワ走ヌソ。師云、猶ヲモ子細ニ。代、金殿臥ニ清風。師云、花鳥筋目句ヲ。代、白鳥不レ来殿裏寒。

花簇々錦簇々ヲ云エ。代、花ニモムラガリ、錦ニモ簇ムラカツテ走。師云、是レハ何ニ物タソ。代云、此ノ心デ走。師云、其レガ何ニトテ、躰對デワ在ルソ。代云、自己ノ一心ガ、目前ニ簇タ時、自己目前ニ体對デ走。師云、句ヲ。代云、三界唯一心。師云、花鳥筋目句ヲ。代、春風雖モ分ト南北、松柏共一根。師云、其ノ句ニ説破セヨ。代、紅ニ簇リ、緑リニ簇ガツタガ、此ノ一心ノ時、一枝デ走。師云、百丈野狐ノ本形ヲ。代、本生デ走。師云、バケ用ヲ。代、花ニワ紅簇リ、錦ニワ五色簇ガツテ走。師云、墮用ヲ。代云、自己ニモ簇、目前ニモ簇デ走。師云、畢竟ニ句ヲ。代云、有リ一老人亦作ナス三万物ト。

水帶陽花香、烟和楊柳青。代、正中偏、々中正デ走。師云、其レニ説破ヲ。代云、正位ガ陰花ヲ帶、偏位ガ楊柳ニ和シテ走。師云、句ヲ。代、柳暗花明十万户、敲門有処々人膺。師云、何ントテ答エタガ、偏正兼帶デワ在ルソ。代、正ガ偏ニ對シ、偏ガ正ニ對スルガ、答用デ走。

師云、畢竟偏正一致ト見ルガ曹洞ノ家細、子細デ走。師云、花鳥ノ透リニ、的句ヲ。代、花流ハ水香、柳絲飛ハ緑カナリ陰細。

拈花微笑。師云、拈用ヲ。代、拳頭ヲ拳。師云、其ノ心ヲ。代、トツコモ本分ノ一花テ走。師云、微笑ヲ。代、両手展開ス。師云、其ノ心ヲ。代云、トツコモ此ノ一花ガ開テ走。師云、傳受シ用ヲ。代云、師膝ニ我が両足ヲタタミ上テ、師ノ手ヲ我が懐中入テ、我手ヲ師ノ懐中入テ、合面ノ、師ノタトエ我が舌頭ヲ入レ、師ノ舌頭ヲ我が口裡ニ入テ、トツクト坐スル也。師云、其ノ座敷ヲ。代、始本不二テ走。師云、句ヲ。鷲靈ノ拈花、鷄足含ム咲ヲ。是レハ双對也。密山派真如寺。龍天白山守護所。

(傍線は筆者が透句に付す)

以下の資料は、大安寺所蔵『本来面目』所収のものであるが、上掲の『上々之参得』の透句と一致し、代語も含めて解釈上の類似性は高いと言える。又、「夜参花木之透」が、三位の体系に依拠するものであることは、「中ノ自己」「中ノ知不到」の術語が一部見られることからわかり、「鉄樹放開花(初ノ自己)」「竹寺閑過春——深、落——色(初ノ知不到)」「宝殿不見人、百鳥含花不献(初ノ那時)」「江國春風吹不吹、鷓鴣鳴在深花裡」(中ノ自己)「當処便是鳳凰城(中ノ知不到)」「不種梧桐兔鳳来宿(中ノ那時)」「花簇々錦簇々(後ノ自己)」

「水帶蔭花香、烟和楊柳青(後ノ知不到)」世尊拈花、迦葉微笑(後ノ那時)の九段に配當されていたのではないかと類推する。

○二、後ノ自己也。鉄樹放開花。代、師ノヒタイニ我ガヒタイヲ打合セテ、アツト云テ倒ル也。師云、何シタル時節ダゾ。代、眼目ノクルリト回ワルサカイ、心花發明デ走。師云、句ヲ。代、風花定猶落ッ。師云、風ノ定羊、花ノ落チ羊ヲ。代、師ノノドロヲ実トシムル也。師云、何ントテ。代云、把断ノ要津ヲ、不通凡聖ヲ。師云、花鳥の句ヲ。代云、氷寒千丈急生連。

○竹寺閑過春——深、落——色ヲ。代、花ヲサググル者モ無く、問イ来ル人モ走ヌ。師云、夫レワ何シタル一処ダゾ。代、無人能到デ走。師云、句ヲ。代、深固幽遠無人能到。師云、花鳥的句ヲ。代、閑庭——無拂、黄花報幽居。

○宝殿不_レ見_レ人、百鳥含_レ花_ラ不_レ猷_ト云ヲ。代、曾テ尊貴ノサタモ無クンバ、ヘル臣下モ走ヌ。師云、何シタル一処ダゾ。代、尊貴不_レ施設_ヲ、誰_レ人得_ニ姓名_ヲ。師云、其ノ句ヲ説破セヨ。代、尊貴_ノ在_リ、姓名_ノ在_ルハ、位イ定ツタ主コソ。師云、的句ヲ。代、古堂寂莫_ト無人伴、含_レ花_ラ白_ク鳥_ノ遠_ク簾_前。

○中ノ自己。江國ノ春風吹不_レ起、鷓鴣啼在_ニ深花裡_ニ。師

云、春風ヲ。代、祖風_デ走。師云、水不_レ起ヲ。代云、野老太良_デ走。師云、啼キ羊ヲ。代、句ヲ。滿觀_カ仏性瀧洞真女。又、無明仏性即仏性。此ノ句モヨシ。花鳥ノ端的ヲ。爲_レ短_不續、爲_レ長_不截、柳体懶鶯不_レ知_レ春。類則ヲ引テ云、一粒在_ニ荒田_ニ、不_レ耕_サ苗_ヲ自_ラ秀。師云、一粒之端的ヲ。代、你_カ太郎ガ境界_デ走。秀_デ羊ヲ。代、二郎ヨツ太郎ヨツ。

○中ノ知不到。當_レ処_ニ便_チ是_ニ鳳凰城_ニ。代、大口忘然シテ坐スル也。兩手展開_ノモ坐ス也。ニタ羊ニテ在_リ。師云、鳳凰城ワ、何ント聞エタゾ。指ヲ以テ吾ヲ指_ノ云ク、是這个。師云、句ヲ。代、清波——異也。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、湛然_ト坐、這裡鳳凰城。同、當_レ処_ニ——城ヲ。代、兩手ヲ——ノ坐ス。師云、夫レワ、ナントテ。代、清波——犯_レ、処ガ、黒ク_デ走。師云、花鳥ノ的句ヲ。代、唯前_ト坐、便_チ是_ニ鳳凰_ニ。

○不_レ種_ニ梧桐_ニ免_ニ鳳來宿_ニ。代、手ニ坐具_デモ、珠数_デモアレ拈ジテ坐。師云、其心ヲ。代、主ノサタノナイ主_デ走。師云、句ヲ。金殿臥_ニ清風_ニ。師云、花鳥ノ端的ヲ。代云、月鎖_ニ蒼梧_ニ鳳不_レ栖。同、不_レ種_ニ——ヲ。主ニ主相無_レ時キ、終イニ出_テ走ヌ。師云、證_ヲ擲_ヲ。金殿——臥。師云、花鳥ノ的句ヲ。代云、吾_ガ園_ニ無_ニ梧桐_ニ、争_レ令_ニ鳳凰宿_ニ。

○花簇々錦簇々ヲ。代、花ニモムラガリ、錦ニモムラガツテ走。師云、是什麼物ゾ。代、我旨ヲ指シテ、此ノ一心ンデ走。又云、此一心ガ像ト体ヲ帯テ走トモ。師云、兼帯シ羊ヲ。代云、自己ハ目前ヲ兼、目前ハ自己ヲ兼テ走。師云、句ヲ。代、三界唯一心デ。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、春自雖レ分ニ南枝ニ、畢竟枝梢共ニ一ニ根。類則ヲ引云、野狐ノ本形ヲ。代、此心デ走。師云、墮シ羊ヲ。代、花ニモムラガリ、錦ニモムラガツテ走。師云、句ヲ。代、有ニ老人ニ變ヲ作ス方物ヲ。

○水帯陰花香、烟和楊柳青。代、正ワ偏ニ對シ、偏ワ正ニ對ノ走。師云、其レワ何ントテ。代、水ガ帯陰花ヲ、烟ガ楊柳ニ和ノ走。師云、徹処ヲ。代、偏正兼對イト云ガ、曹洞ノ兩手兩脚デ走。私云、花鳥ノ端的ヲ。代、柳暗花明リ十万户、敲レ門処々有レ人膺ッ。師云、偏正兼對イヲ含マセヨ。師云、正ヨリ偏ヲ敲ッバ、偏膺、偏デ正ヲ敲ッバ、正膺エテ走。同ッ水滯——ヲ。代、偏ワ正ヲ兼子、正ワ偏ヲ兼テ走。師云、柳暗——。師云、其レナントテ。水帯陰花ヲ、正中偏、烟和楊柳青、偏中正デ走。師云、句ヲ。柳——。師云、其ノ句ノ證拠ヲ説破セヨ。代云、正ワ偏ニコタエ、偏ワ正ニ答エテ走。

○世尊拈花、迦葉微笑ヲ。代、師ノ膝ノ上ニ足ヲアゲテ、ビ毛ヲ取り結ンデ、師ノ口チニ我ガ舌ヲ入レテ坐ス。

師云、代句。云、上^ヤ和^キ下^{ムツマシク}睦、陰陽相^イ隨^ツ。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、鷲不萌枝、微笑ノ開花盛^チナリ。類則ヲ。世尊陞座、文殊白槌シタ幾ヲ。師ノ口チニ吾^ガ舌ヲ入レテ坐ス也。師云、其レワナントテ。代、過去久遠憶切ヨリ約ダクデ走。師云、諦觀法王、々々如是ト云機ヲ。代、無^コ為^レ事、無^シ事^ヲ事^ト為^也。亦夕師云、聖諦第一儀ヲ。代、妙^ハ一^{フウ}樞^ノ有^リ先^キ聖^ニ入^レ眼^ヲ。師云、廓然無聖ヲ。代、曾不^レ知。師云、恁^ヤ麼時如何。代、抽^{アツ}身。師云、至道無難ヲ。代、揀擇無^レバ、只^ダ張^ノ李^四、狸奴^ノ白^狗マデ、走。師云、老僧不^レ在^明白^裡ト云ヲ。代、照^尽体^ニ無^位、通身大道。師云、同^ジク示^衆シ羊ヲ。代、ナンデモヲツトツテ、サシアグル也。師云、其レワナントテ。代テ、無^吼ノ鉄^鎚デ走。

永昌寺花叟派ノ大事。亦夕云、真如寺全金和尚ノ夜参モ又タ如此也。

(傍線は筆者が付す)

本書は、永昌寺花叟派の大事の解釈であるが、密山派に属する真如寺全金和尚の夜参の拈提も同じであるとしているから、無極派下における花叟派と密山派との交流関係を知ることができ、又、或る時期以降、夜参の項目に対する代語・取句と言ったものが固定化し、かつ画一化の方向へと進み始めたのではないかと推定する。

又、宏智小参の語句が公案として用いられる例は少なくないが、「宏智八句」（「前八句・後八句」とも）と称されるものは比較的早くから夜参・本参の透句として成立していたものと思われる。以下に、円応寺所蔵『靈機宏聖道三位之次第』所収のものを挙げてみたい。

○前八句

○一段光明亘古今。代、十世古今始終、不離當念。注云、一段ノ光明ト云ハ、自己ノ光明也。無念無相ノ時、當念也。取、一念普觀無量劫、々々々々即今如今。又、一念万年去。又、吾道一以貫。又、我見灯明佛、本光瑞如此。又、觀彼久遠、猶如今日。

△照破有無脱情塵。代、万機頓削縁思断。取、即心即佛。注云、無心無念ノ時、万機ヲ削也。此時、情塵ハ脱也。又、有無ト云ハ、此性也。有ヲハ有ト照シ、無ヲハ無ト照ス也。破ル自己ニ用也。照破ノ時節也。此時頓削也。又、滅却心頭火自涼。又、得罷休時且罷休。又、廓然掃尽無絲髮。又、脱却殼漏子、体自合虚空。又、放身捨命正此時。

△當頭觸着弥天罪。代、喜識尽時消息断。法云、自己ノ當頭也。悟也。爰ニ住着セハ、弥天罪也。一句合頭語、万劫繫驢橛。喜識ト云ハ、菩薩地也。歡喜地也。消息尽ト云ハ、佛祖ノ消息ヲ尽ス也。惠能無伎倆。臥輪ワ、當

頭也。又、蔡花向日、柳絮隨風ト云ハ、蔡花向日ハ、觸着也。柳絮隨風ワ、弥天罪ヲメクル也。轉シテ智不到ニ至也。轉スル処ガ、六祖ノ処也。智不到ノ処ヲ、能々可見合也。

△退步承當特地新。代、知尽功忘。又、位滿。注云、退歩トワ、主ニ急ト相見ノ時体也。承當トハ、主人ニ承當スル也。田地ト云ハ、佛祖ノ脚力ノ不及処也。程社、新ナルト云田地ハ、那時ヲ云也。主人ニ相見ノ時ハ、後口へ退ク者也。程ニコソ、退歩トワ云タレ。

△紫極宮中烏抱卵。代、世尊於多子塔前、以僧伽梨收連迦葉分半座、令迦葉坐。注云、紫極□王ノ、イツモ御座処ヲ云也。烏抱卵トワ、世尊迦葉ニ羊座ヲ分ツヲ云也。爰ガ、烏抱卵ト云地也。主中主也。黒中黒也。多子塔前カ、紫極宮也。袈裟ヲ一ツニ掛ル処ガ、烏抱卵体也。於多子塔前、迦葉ニ正法眼藏尽ク傳衣也。以本則可見。

△銀河波底兔推輪。代、手指空時天地轉。又、金鷄啄破瑠璃卵、玉兔揆開碧落門。注云、銀——輪トハ、一氣生也。代、手——時ト云ハ、主中主、リニツムル時ハ、大極也。堅一指処テ、ハヤ天地ト分ル也。ソレヨリ一易二義ト分ル也。此句モ大事ノ口傳ナリ。

△是須携妙手来用。代、廻途石馬出紗籠。注云、妙手ト云ハ、兎力輪ヲ推手ヲ云也。亦好手々中呈好手、紅心々

裡中紅心呈ス。離ノ卦ヲ疊手ヲ、好手ト云也。先聖ノ好手ニ吾好手ヲ呈スル也。紅心々ト云ハ、吾カ意ニ、先聖ノ意ヲ合カ中也。大支ノ口傳アリ。離ノ卦ニテ、可見合本参也。

△百億分身処々真。代、唯一堅密身、一切塵中現。注云、此本性カ分身スル也。又、重離六爻、偏正回互、疊而作三、変尽成五。此心ハ、離也。離卦ヨリ、八々六十四卦ト分ツ程ニ、百——真、是ハ、本参ニ見合セテ、一々ニ挙揚スル也。参得ノモ、無レ口傳可レ得難。

○後八句ハ、前八句ノ注脚也。

△髑髏前有本来靈。代、一念不生全体现。注云、本来ノ靈ト云ハ、一段ノ光明ヲ云也。髑髏前ト云ハ、自己ヲ云也。無心無念ノ時、爰ワ、髑髏前也。是ニ、三髑髏アル也。

△照徹昆盧頂顛平。代、一道神光威音劫外。注云、有無照破ノ本光カ、昆盧頂ヲモ照破スル也。代ノ意モ同キ也。

△玉馬過関正半夜。代、玉壺裡有轉身方。注云、玉馬ト云ワ、功処ヲ云也。當頭觸着ノ処也。弥天罪ト、マタヌケル也。正半夜也。代モ同意也。玉壺裏ト云ハ、功処也。轉功処也。又、仰弥高。又、慇懃無米飯、堂前不問親。

△木鷄喚月恰三更。代、出得出不得、渠儂得自在。注云、鷄ノ啼ハ五更テ社アレ、恰三更ト云ハ、出ヲ兼ル也。退

歩用処也。

△寥寥絶蹤轉前功。代、無功妙旨、不涉玄微。注云、功轉スルコトハ、元ヨリ轉シテ社、紫極宮ノ田地ニハ至リ走スレ。

△歴々生光借位明。代、頭戴午夜月。又、半夜證清月正圓。注云、銀河波ノ底ヨリ出ル月光也。代ノ意ノ時モ、午夜ト云カ、夜半也。又、月ハ、陰ノ光也。借位明ル光也。

△却着弊衣垂化手。代、妙印全提肯、露那時文彩。化手ト云ハ、妙手ヲ携来ルヲ云也。妙処ヲ露サン為也。程ニ、代モ同意也。

△合同船子随流行。代、窓間蒲團与禅板、門前細細雨与斜風。注云、百億分身也。後八句ハ、前八句ノ注脚ト可見物也。口傳有リ。

傍線部に見るように「自己」「智不到」「那邊」の曹洞三位の術語が用いられており、又、波線部では本参を参看して理解すべきことを指摘していることから、「前八句・後八句」が夜参として石屋派下において参究されていたことが分かる。

四、叡山文庫所蔵『禅林鈔』所収の

「曹洞三位注却」について

本稿では、『禅林鈔』所収の「曹洞三位注却」を中心に、他

の三本①「無極和尚三位注脚」(大安寺所蔵『不出戸』)②「三位之次第」(大安寺所蔵『本来面目』)③「曹洞三位之注却」(松平公益会所蔵『洞水逆流』)との比較対照表を作成し、資料編(三)として掲げた。これらの資料は既に安藤嘉則氏によって比較対照されているが、「自己」「知不到」「那時・那邊」の三位に関する定義、透句の引用を比較検討する意味からあらためてここに取り上げたい。

叡山文庫所蔵の『禅林鈔』は先の大安寺所蔵『本来面目』、長興寺所蔵『上々之参得』と同様に、大部の本参資料であるが、先ずその書冊形式についてみてみたい。

- 一、冊数 1冊
- 一、料紙 楮紙
- 一、大きさ 縦14・2センチメートル、横20・1センチメートル
- 一、装釘 袋綴
- 一、標題 「山門東塔南谷／眞如藏 三百十一以／禅林鈔」
- 一、請求番号
- 一、枚数 改表紙、100丁(本文100丁)
- 一、行字数 每半葉11行、1行20字前後
- 一、刊写 写本
- 一、書写年 未詳

- 一、筆者 未詳
- 一、識語等 無し

次に、本書に引用されている透句について考えてみたい。前述したように、本参はそれぞれの派祖たちの解釈(下語・代語)が固定化し、それらを内包し并挙する傾向を持つように思われる。「自己」の透句としては以下のものが挙げられている。

爰ヲ、案山点頭、万機休罷、犢牛児ヲ生ス、有無照破、大休大歇、樹倒藤枯、露柱点頭シテ三千里外ニ走ル、大花山立テ叫希有、堂前露柱叫啾々トモ云也。

上記のように、『禅林鈔』ではその透句をなした僧名は見いだせないが、例えば香林寺所蔵『無極一派夜参一透・花叟派三位注却』には、

無極派夜参秘訣

夜参初

案山点頭ニ。○月江之着語ニ云、踏躰佛祖不レ求レ跡ヲ、絲毫^モ觸着^{スレバ}成^ル火坑ト。○泰叟之着語ニ、露柱点頭、三千里外ニ走ル。○日峯ノ着語ニ、視^ル自己^ヲ如^シ冤家ノ。○一州ノ着語ニ、蘊山破^ル時、天地崩裂。○花叟ノ着語ニ取ツテ云、大花山立テ叫^ス希有ト。○蜜山ノ着語ニ、樹倒^レ藤枯^ル。本侍者ノ着語ニ、端的失^ス端的^ヲ。○無極云、先ツ案山トワ、死處ナリ。点頭ト云ワ、活處ナリ。

とあり、ここでは、それぞれの派祖がこの項目に対してなした着語として位置づけられている。猶お無極派下諸派の本参資料についての比較検討は今後行っていききたいと考えている。

大安寺所蔵『本来面目』(仮題、近代の後筆にて『法門集』と表題される)所収の「夜参」を資料編(二)として掲げた。本書については、『禅林鈔』と合わせて次稿以降において考察したいと考えている。

注

- (1) 拙稿「中世曹洞宗における本参資料研究序説(四)」(『駒澤大学仏教学部研究紀要』第五八号、二〇〇〇・三)
- (2) 金田弘「叡山文庫と禅籍抄物——主として洞門抄物類とその性格について——」(『國学院雑誌』第八二巻五号、一九八一・五)
- (3) 拙稿「叡山文庫蔵『碧巖休岱記』について」(『宗学研究』第三九号、一九九七・三)
- (4) 同右「長興寺蔵の本参資料について」(『曹洞宗宗学研究所紀要』第一〇号、一九九六・一〇)
- (5) 安藤嘉則「曹洞三位の研究(一)」(『駒澤大学研究紀要』第三号、一九九六)

叡山文庫蔵『曹洞三位秘傳』資料編(一)

表紙

「山門東塔南谷 淨教坊／眞如藏 三百十一以／曹洞三位

秘傳

改表紙

「×曹洞三位秘傳／草屋僧／快闇之／
曹洞三位。

死活當頭ヲ。代、師ノ前ニツ、ト入テ一喝放身シテ皈ル。師云、
恁麼ノ時如何。代、誰有答話セン。心ハ、死活當頭ト云ハ、
百骸トモニ快散ノ吋節、有無・生死・會不會・背觸ヲ、クツ
ト脱尽シテ、仏祖ニ肌ヲ齊ウセヌ。爰ハ、師家モ無、学者モ
無イゾ。爰ハ、何ントモ拳派ハ定ラヌ也。人々ノ見処呈云テ
行ク也。恁麼時如何伝ハ、足土、見羊也。拳シ派モ當則ニ能ク
涑底シタ證拠也。ナセニナレハ、當頭ノツ、トツヨイ呈、師
家・学者ヲ立セヌゾ。ホトニ、誰レ有テカ當話センテ、答羊
ズ者ガ在ツテ社。爰ワ、天モ無、地モ無イゾ。我モ無、人モ
無イゾ。師云、活句下ノ兼當ヲ。代、此ノ末ツ境イ、二度逢
ヌゾ。師云、其レハ何ントテ。代、吋節難逢。(一オ)心ハ、
是レハサマシ派ノ兼當テハ無イソ。當頭ニ涑底ヲ去テヲリヤ
ル。何ント兼當シタゾ。ナレバ、此末境イト云ハ、一息切斷
ノ吋節ノ「」。此ノ吋ニハ、衲僧モ二度ト逢ヌ儀。此ノ切
ツノ當頭ガ、ツ、トツヨイニ依テ、當頭ヲモ當頭トモタヌ儀
。処ガ、涑底活句下ノ兼當テ走。処ヲ、其レハナントテ、
ト云ガ、證拠ノ請羊。処ヲ、吋節二度ト難逢ト云ガ、證
拠ノ展羊。

○点凡入聖ノ自己ヲ。代、一撃忘^ス所知。師云、吋如何。代、當人難^レ弁^シ。師云、其テ凡ヲ点ジ羊ヲ。代、末此ノ境界、生死ヲ脱尽シテ走。心ハ、凡ヲ点ジテ聖ニ入ル徑チガ、ツトツヨイニ依テ、諸知諸念ヲクツト払ツタゾ。吋キ、空眼空心^ニデ置イタゾ。サテ点凡ノ吋節（1ウ）ガカイナクンバ、識浪忘念^ニ乱^レ惑セラレ、入聖ノ胸懷ハ、ムサラシウナツタ^レヨ。凡ノ点処ガ、トツトツヨイニ依テ、入聖ノ胸旨ハ、清涼ノ肺腑^テ居タゾ。処ヲモ、吋如何ト云ハ、當人ヲ請^{コイ}ヤウタゾ。処ヲ、當人何ンゾ弁ゼント云ガ、点凡入聖自己ニ羊^ニ當人シ羊^ニ。ナゼニナレバ、点凡入聖ノ逕チガ、ツトツヨイニ依テ、己レヲ捨テタゾ。吋、弁ンジ羊ス。己レガ在^テツ社、己レト云ハ、識浪忘念^ノヨ。一撃忘^ス所知^ヲ。己レヲ捨テタゾ。是レガ、点凡入聖ノ自己當人^ニ。亦生死透脱スルカ、凡ヲ点ジ羊^ニ。○自己ノ点処ヲ。代、一句合頭語、万劫繫驢^ノ轂^ヲ。師云、夫レハ何^トテ。代、不^レ離^レ位^ニ。墮^レ在^テ毒海^ニ。心ハ、凡ヲ点ジテ聖ニ入ル処ガ、自己^ニ。其コヲ点ゼデハ、其コヲ肝要トモテバ、自己ノ識浪^ニニマトワルゾ。呈、拳（2オ）著モ、点凡入聖ノ処ガ、一句合頭ノ語タゾ。其ノ合頭ノ語ヲ肝要ト持テバ、万^ノ一^ノ。呈ニ、一句——轂^ヲヨト、クツト見ル切ル底^ニノ者ノハ、其コニ留ラヌ。吋ガ、自己ノ点処^ニ。在^テルヲモ、其レハナントテ、ト云ガ、足土ノミ羊也。不^レ墮^レ——海^ニ、ト云ガ、徹^テ処^ノ展^ベ羊也。点凡ノ徑チヲ肝要ト持ツガ、毒海ニ墮

在シタ^レヨ。其コヲ离却セデハ。○自己不^レ点ヲ。代、當^レ処ヲ不^レ離^レ常湛^ニ然。師云、夫レハナ二者タゾ。代、本來ノ面目露^レ當^レ頭^ニ。心ハ、當頭ガツヨイニ依テ、當頭^ニ當頭ヲヌケタゾ。呈、拳著モ當頭ガ、自己不^レ離^レ位ヲト云ガ、一点^ニ。自己ヲ点ジテ、其コニソマヌ理ガ無クテハ、ト云テ、直ニ点ジタ^レデハ無イ。自己ノ當^レ派ガ、トツクトツヨイニ依テ、當頭^ニ當頭ヲヌケタ処カ、常^ニ湛然。彼ノ聞耳ダ。（2ウ）是ガ、不^レ点ノ点^ニ。或ハ雲門宗^ノ杯^ヲガ、爰^ニナセ——バ、雲門一代ハ、折脚下ノ當頭ガ、ツトツヨイニ依テ、當頭^ニ當頭ヲヌケタゾ。或^ハ日々是好日^ト働^ルタモ、當頭ヲ離^レズ、當^レ當^レヒガサメヌゾ。日々是好日、常^ニ湛然^ニ。是ガ、自己不^レ点^ノ点^ニ。処ヲ、何二者ノゾ、ト云ガ、當人ノ請イ羊^ニ。呈、句モ自己當着ノ徑チガ、トツトツヨイニ依テ、東西ヲ弁セヌ。声色不^レ分、生下未分、本來ノ面目^ニデ、卒度モアラタメヌ、根本知^レ居タ。是レヲ自己本分ノ境ト云タゾ。或ハ雲門^ノハ日々好日、玄沙ハ元是^レ沙三郎ト落着タガ、本來面目ダ。此句ヲ、一州派^ニデハ、知不到ノ処ニ用ル。其ノ吋ハ、二ツ三ツノ少兒ノクルイマワツテ、桶ゴノスワツテアツカト打開^テ居タハ、只虚空ノ如クテ、卒度モ智解ガ出テヌ。（3オ）処ガ、本来面目智不到也。サテ、最初^ニテ、當頭ガ本来面目、智解ハ出ヌ^レ。

○自己ノ醒^セ処ヲ。代、冷湫々^ニ地^ニテ走。師云、兼當ヲ。代、山^ノ虚

風石落、樓静月侵門。心ハ、爰ヨリ、自己ノホノウヲ醒シタ。挙処モ、湫々ハ、サ、ナミ。或ハ耕作ナトヲスルニモ先ツ田地ヲタカヤシ、其ノ後チ土ヲツブシテ、水ヲカケ、籠ム物ノタゾ。一吋二吋モ過レハ、水ハスム物ヨ。水ハ水、泥ハ泥ニ沈テ、サ、ナミノことく、蒼々冷々ト澄テ居ル物ダ。宗旨テハ自己當著ノ処デ、境界ヲクツトスキ皈シテ、其ノホノウヲ冷湫々ト醒マシタ。処ガ、自己ノ醒処。句モ、自己當着ノ処テ忘智忘念ヲクツト払ツタ。処ガ、山虚ノ境界也。吋、風石落ツ、出息ノ息モタエタ。吋キ、樓——門ト云ハ、(3ウ) 胸懐ガ月キ一盃。

○自己目前ノ兩ノ隔リヲ。代、尽ト不尽トノ境界テ走。・師云、徹処ニ句ヲ。代、月潭底穿水無痕。心、尽ガ自己、不尽ガ目前也。呈、尽シテ至ツタ自己ト、尽サヌ自己ト一牧ニナツタ。処ガ、自己目前一牧也。在レトモ、其コニ兩堀ノ隔リガ無クテハ。句モ、月ハ圓欠ガアル呈、尽。水ハ不変ナル間ダ、不尽。在レトモ、月ガ潭底ニ穿テバ、尽不尽一牧。跡ト無イト見レバ、兩堀ノ隔タリ也。

○自己目前一牧ヲ。代、藏尽自己身、偏界供影現。・師云、自己目前ノ差ヲ。代、尽ハ自己、不尽ハ目前デ走。心ハ、死活當頭ヨリ点凡入聖、自己ノ点処、自己不点、醒処、自己目前兩堀ノ隔リト、悉ク(4オ)自己ヲ尽シテ、ソ、ケヌ目前ト一牧タゾ。在レトモ、其レハ、尽シタ自己。爰ハ、

當頭ガトツトツヨイニ依テ、ソ、ケヌ目前ト一牧タゾ。法眼宗ノ自己ガ、爰ノ。當リ派ガトツトツヨイ呈、柳緑華紅ト、ソ、ケヌ目前ト一牧タゾ。挙派モ、自己目前一牧。扱カイナクンバ、自己ト目前ト隔ルソ、ト云迄ハ、差別ガ聞ヌ呈ニ、尽スハ自己、尽サヌハ目前、ト云ガ、差別分羊。

○自己真照淵源ヲ。代、大風大波ノトツト静テ、除々タル吋節テ走。師云、句ヲ。代、只照壁月ノミ有テ、更ニ吹葉無風。心ハ、自己大風、荒浪ノクツト吹散ジ羊、シツマツタ処ガ、真照淵源也。風波□沙休ガナイゾ。爰ハ、大雨大水ナトニ、洞ヲ杯ヲクツトツンヌケタ跡ノ底ダ。或ハ、洞然明白ト云モ、爰ラノ。テ走ゾ。亦地捲風来テ忽吹(4ウ)散。望朗樓下水如天、ト云モ、爰ラノ也。呈、句モ風ハ自己。其風波ノクツトシズマツタ処ガ、淵源。爰ハ只照——風テ、境斗リテ、人ガ出テヌ也。

○毫釐功ノ迷ヲ。代、自己一色テ走。師云、ナントシタ自己一色テハ在ルゾ。代、雪橋林覆同一色キ。師云、其テ迷イ羊ヲ。代、明月ノ夜疑李花天。師云、今一ツ句ヲ。代、地疑明月夜、山似白雲朝。心、雪ト云ガ、自己ノ功、橋ト云ガ、智不到入門。雪ガ覆エハ、同一色テ、差別ハセラレヌ。処ガ、迷羊也。雪ト橋林トハ、毫釐差在レトモ、同一色ト見レバ、差ハ無キ也。爰ヲ、一色ノ迷イト云也。句モ、明月ハ圓欠ガ在ル間タタ呈、尽ノ自己ノ功。李華ハ、天然不尽テ、智不

到ノ功ガ、(5才)毫釐差ダ。在レトモ、疑ト云ガ、迷イ羊也。今一ツノ句モ疑ト云ガ、迷イ羊也。白雲ハ、尽也。是ガ、毫釐差。疑ト云イ、似タリ伝ガ、迷羊人。

○智不到ノ一句子ヲ。代、選佛場境界捨テ走。師云、其コニ句ヲ。代、蛇皮脱竜骨洗。師云、其コデ一句子ヲ。代、此境界ニ到テハ、月ヲミテモアツ、華ヲミテモアツ。師云、夫レハ、選仏場ノ一喝ニ紛ル、ゾ。華ノ面白サニ、アツト云タトテ、全ク喝ノ用ヲバナシ走ヌ。師云、喝ノ用ヲナサヌ證拠ヲ。代、長安夜々家々ノ月。心ハ、一句子ト云ハ、當リ派。ト云テ、荒イ、デハ無イ。月華ニ對シテアツ、ト云ガ、一句ノ當派也。此境界ガ、智不到ト心得可シ。常ヲ皈シテ道ニ叶ウト云モ、爰ノ、。拳派モ、死活當頭ヨリ毫釐功ノ迷込テ、色々ニ沙汰スルガ、皆ナ(5ウ)選仏場ノ唱エタ。其ノ間ヲ、一句ノ當派デ、クツト捨テタゾ。句モ、蛇タ、皮タ、竜タ、骨タ、ト云ガ、皆自己ノ湿氣、三蛇九鼠ダ。夫レヲ、華月對スル処テ、捨テタゾ。此境界ニ、智ハ出ヌ、ト云処テ、道ノ入派モ聞羊ズ。爰ハ、全ク喝ノ用ヲバナサヌゾ。長安夜々家々月ト云ハ、長安ノ家々ニ月サヤカニ指シタヲミテ、サテモコラヌ月カナ、アツト云処テ、一句ノ當派、智不到也。○智不到功位迷ヲ。代、雪封々々雪却迷、月滿月更非照。心ハ、爰ハ、自己ノ功ト智不到モミ合セト心得テ、ヲカシマイ。初ノ雪ハ、自己ヨリ尽タ功。後ノ雪ハ、智不到ノ功デ、尽

サヌ雪人。却テ迷ウト云ハ、自己ノ功ト、智不到ノ功ト一牧ニシテ、隔テナイゾ。亦月モ初メハ片月デ、次第ノ(6才)圓月ニナルゾ。呈、自己ノ功ニモタセタ。後ノ月ハ、當中ノ月デ、照無イ月。月滿月非照、功無功一牧ニ、其コテ照ナイ処ヲ、智不到功位迷ト云也。

○清白圓明智不到ヲ。代、樓閣千家月、江湖万里秋。師云、正當恁麼ノ時節。代、圓通大虛、無欠無餘。心ハ、清白圓明ト云ハ、智不到一色デ、トツコモ一等ニ照シテ、欠道無イヲ云也。呈、句モ樓——月、江——秋ト云ハ、家々門々ニ、トツコモ餘ス照シタ。ドノ入江ノ、鳴ノモミサシ、一等ノ秋ダ。処ガ、圓明ノ智不到也。在ルヲモ、正當恁麼——何ト云ガ、足土ノ見羊人。清白圓通大虛。一片ノ御代人。無欠無餘、欠ケ道無、アマリモ無ゾ。爰ヲ月明月秋ヲ智ラヌトモ云タゾ。(6ウ)

○智不到ノ点処ヲ。代、鶴出銀籠冲霄漢。心ハ、銀籠ハ、智不到一色。鶴ハ、其コノ主。銀籠ヲ出テ霄漢ニ冲レハ、本位ニツメタ時ガ、智不到点処也。

○智不到ノ不点ヲ。代、水天虛碧共秋光。師云、正當恁麼、如何。代、清波不犯意自異ナリ。心ハ、爰ヲ宗旨ノ面蔵ト云タゾ。三位ハ、一位ニ皈シタ処。水天ト云ハ、天水ニエイジ、水天ニエイジテ、更ニ隔テナイ処ガ、知不到一色。其コテ虛碧ト云ガ、本位也。時、久遠・今時共ニ照シタゾ。爰

デ澄ンダヲ、正當恁麼吋ト云ガ、猶ヲモ子細ニ徹処ヲ請羊也。呈、句モ清波犯サヌ処、不点一色也。ホトニ、其テ異ナト云ハ、本位ノ聞耳也。爰ガ、不点ノ点々。(7オ)

○智不到不点ノ々ヲ。代、エン 梵然ン沖レ天氣有リ。心ハ、宛 梵ハ、ソノ。猶ヲモ子細ニ。代、舟ヲ花寄吟不レ眠、不レ智身廣漢宮在リ。

心ハ、宛 梵然ト云ハ、不点一色々。冲レ天ニ氣有リト云ハ、不点ノ点ノ本位ニ叶タレ。処、猶ヲモ子細ニト云ハ、徹処ノ請イ羊也。呈、句モ、宛 芦華ト云ガ、不点一色也。独在地々。吟不レ

眠ト云ハ、洞上テハ、爰デ廿年鳴アカシ鳴暮シテ、不レ智身ノ廣漢宮ニ在ルヲ、本位ニ叶タ。処ガ、不点也。呈、爰ヲ那吋ノ入門ト云イ、至到入派ト云也。或ハ不点々ハ一ツナレト

モ、毫釐差ガ在ル。ナセニナレハ、不点ト云ハ、一色ノ上デ本位ヲ見タゾ。サテ、不点ノ点ハ、一色ノ地ニ置テ、本位ニ心ヲカケタレ。爰デ鳴キ明シ鳴キ暮シタ。爰ヨリ自然ニ彼ニ

(7ウ) 叶ツタゾト云テ、アヨミヲハコンタノレデハナイゾ。在ルヲ、不レ智ノテハテタゾ。処ガ、本位ニ叶イ羊々。吋ガ不点ノ点也。

○智不到異弁ノ眼ヲ。代、牛羊眼無ニ方隅。師云、子細ニ云イ持チ來レ。代、宛 馱ガ觀レ井ヲ見ル。心ハ、異ヲ弁スル眼コト云ハ、少モ筋ノ出ヌレ也。サテ、筋ガ出テハ、弁セラレヌ

ト云ハ、呈、句モ、牛羊ガ井ヲ見ル如クニミデハ、此ノ眼ニ、方隅・カドハ出デヌ。此ノ牛羊ノ肺肝ガ、智不到異弁ノ眼也。

此智不到ハ、尽サヌ智不到也。不点一色ノ智不到ヨリ高キ。爰ヲ南泉ノ智不到、異弁ノ眼、異類ト云タゾ。早竟爰ガ南泉ノ本位也。居処也。

○功位路玄ニ通レ。代、借テ功明レ位ヲ。師云、直ニ路玄ニ通シ羊ヲ。(8オ)代、雪溪橋断ノ。繼ク。心ハ、功極ノ処テ本位ヲ見、

功位路玄通処ト云タゾ。呈、句モ、借レ功明レ位ト云ハ、功処デ無功ヲミタレ。サテ、直ニ至テ明ムルヲ、玄ノ通処トハ云ハヌゾ。本位ノレハ、爰デサタスルガ、路玄ノ通処也。

末エハ、徹処ノ為メダ。雪ト云ガ、兼中至、功処タ。雪ハ、溪橋断ヲ繼ト云ガ、本位ニムスト掛渡シ羊々。○八処ノ自己ハ、処ノ智不到ト一々ニ尽シレシテ、功極ニツメタガ、今亦無功ニハ至ヌ。功極・路絶溪橋ハ、断エタゾ。在レトモ、

功処デ鳴キ明スガ、本位ニ叶タト見レバ、功処ノ雪テ溪橋・本位ヲ掛渡タゾ。功位路玄通処也。

○那邊ニ當リ。代、金鎖ヲ揭開裏頭ヲ看レ。限々ニ風光元自異リ。(8ウ)心ハ、那邊ト云ハ、本位ニ玉関・金鎖ノ邊ニ。呈、句モ金鎖——異、金——

看レバ、ト云ガ、那邊々。限々——異々、ト云ガ、本位洩底承當也。是レハ、屋裡ノ風光ノ弄シ羊々。

○那邊透過ヲ。代、王不レ存ニ王位ヲ。師云、何ントシタレバ、徹底ノ句ヲ透過トハ云タゾ。代、王々位ヲ存ゼ子ハ、那邊ヲバ透過ノ走。師云、猶ヲモ子細ニ。代、正座シテ正ト不レ樂ニ。心

ハ、那邊透過ト云ハ、其ノ位ニ在、其位ヲ知ラヌガ、測底也。処ガ、透過也。爰ハ、當吟君也。當吟ニ隱座シテ、隱座ト知吋、那邊ニ測底タ。呈、句モ王不存王位。那邊測底タゾ。在レトモ、何ントシテト、徹処ノ句ヲ、透過ト云タゾ、ト云ガ、足土ノ見羊也。処ヲ、王々位ヲ存子バ、透過デハナイカト云ガ、(9オ) 測底シテ測底ト知ヌ吋、測底ヲモヌケタゾ。呈、爰ハ、正座シテ正ト楽ヌ処也。那邊透過也。

○那邊退得這裡行履ヲ。代、雖城都万——夏好、不_レ如_二我_一肩_一。師云、即今行李底作麼生。代、生不願_二天堂_一、死_一不_レ恐_二地獄_一。心ハ、那邊退得ト云ハ、自己・智不到・那邊ト尽ク修シ尽シ、虚閑無_レ妄ノ漢ニ落居スルヲ、這裡行李ト云タ。ホトニ、拳著モ、城都ト云ハ、無功本位ヲ云タゾ。在レトモ、ドノ衲僧モ、修行シ尽シ、行ジ尽シテハ、無功本位ニ至ル。呈、爰ハ、城都選_レ仏ノ立_レ処ヨ。其コヲバ、肝要トセヌゾ。呈、不_レ如_二我_一肩_一、ト云ハ、其コヲ退得シテ、海山無_レ妄ノ漢トナツタ。芦苔裡ニ行ジタゾ。是、那邊退得、這裡行李ト云。ト云テモ、即今ノ行李ガ、(9ウ)聞エヌ。呈、末ハ徹_レ処ダ。那邊ヲ退得シテ這裡ニ行李シタ人ノ云_レく。生不_レ死、不_レ獄ト云ハ、天堂ヲ願イ、地獄ヲ恐ル_レ処ヘ當_レタ鉄棒タゾ。天堂・地獄ヲモ不知、臥シタケレバ臥シ、起キタケレバ起_レタ、此ノ人ニ、閻羅夢ノセメハ及ヌゾ。向_レ落着イタ人ヲ、這裡行李俣ノ境界、ト云テ走。引_レ法眼宗ナトモ、當_レ派カ、ツト闕_二ナニ

依テ、スワリ派ハ是也。

○阿誰勘_レ弁。代、笑入_二芳塵_一乱滿_二遊_一。師云、勘_レ弁ハ、ナント聞エタゾ。代、乱滿タル花杯ガ、其人カ智_レラヌカ、其ノ人タゾ。師云、爰ヨリ見レバ、釈迦達磨ハ、奴兒婢兒タゾ、ト向_レ見ル底ヲ、代、心_レンデ走。師云、使_レ羊ヲ。代、早朝喫_レ粥、午時喫_レ飯モ、此ノ人ノ□□_レデ走。(10オ)

○那时三主ノ勘_レ弁ヲ。代、幻人真人本來人_レデ走、ト云テ、名ヲバ別ニ喚_レビカエタガ、主ハ只一人_レデ走。師云、其レハ、ナントテ。代、俗人ノ宇帽_一子名、宮殿壽領トテ、三ツニ名ヲバ付ケタガ、主ハ只一人_レデ走。師云、早竟如何。代、名依_レ喚應。心ハ、幻人本來人ト名ヲバ三ツニ喚_レンダガ、早竟ハ、本來人ヲ幻人_レ、真人_レ云タゾ。呈、社、名ヲ喚_レニ依_レテ應_レズテハアレ。或ハ、三種ノ君_レテ高位ニシテ、四臣ニ對_レセヌ主ナレトモ、縣裡_一卒度出_レテ、金鞭武力ヲ取_レテ、四海之烟塵ヲ収_レテ、天下ヲ保_レチ、村裡_一下_レテハ、海_レ山無_レ妄ノ漢ト成_レテ、鋤_レ利・鑿_レ頭・鉗_レ斧・釣_レ竿ヲ取_レテ、其_レくノ所作ヲナシタゾ。如_レ是ノ三種ニ出_レダガ、早竟ハ、一人主人_レ。此本來人ガ百性百億ニ化身スルゾ。幻人ハ、通身無_レ影像人_レデ(10ウ)不_レ尽ナリ。本來人ハ、本有天然ノ主_レデ、不_レ尽ナリ。真人ハ、曹洞拳揚也。捨_レ別通身無_レ影ト云_レ句ヲ、三段ニ用_レル也。

○那时窮極ヲ。代、限_レノ極_レリ_レデ走。師云、當_レヲモ子細ニ。代、威音王未_レ曉、弥勒豈_レ醒_レ々_一。心ハ、那时窮極ト云ハ、年ナ

ラバ臘月、月ナラバ晦日、人ナラバ七十・八十二、クツトツメタ処也。爰ヲ宗旨デハ、極限ト云也。爰ガ限ノ極リナ呈、拳著モ限一片ノ処ハ、威音王已前、天地未分処也。爰迄ハ断ル呈、弥勒豈醒々ナランニ。ト云ガ、卒度クツロゲ羊也。在レトモ、十分ニハ醒メヌ一也。那时窮極ガ、午ノ吋正當。爰ガ子ニモ虎ニモ落ヌ一処也。

○位裡点側ヲ。代、極バ変ジテ走。師云、ナント変ジタゾ。

(11ウ) 代、金鶏夢醒声未發。心、窮極ト、クツト□メタ処ガ、位裡一片デハ断ル。ホトニ、其コテ点側ト云ガ、子ノジ、スマヌ一幾。呈、拳処モ窮極ト屈トツムレバ、点側ト變ジタゾ。爰ハ、位裡デノ点側ト見レバ、床コ販リデ、未タ出デハセヌ也。呈、句モ、金鶏ハ位裡ノ主。此ノ金鶏ガ、点側ト夢ヲバ醒シタゾ。声未發、十分ニハ出ヌ吋点側。

○裡頭却来ヲ。代、蜜移ニ步ニ六門曉。師云、恁麼吋如何。代、不守那邊空王殿。心ハ、裡頭ノ却来ト云ハ、位裡ニクツトツムレバ、亦却来セデハ。呈、句モ、裡頭デ却来ト見レハ、蜜ニ移ニシタ一步ニダ。一步シタ処ハ、マダ位裡デ踏ダ一也。在レトモ、却来ノ氣ガ在ルト見レバ、六門ノ曉クテ、出ヌ氣ガ在ル。呈、早竟位裡ニモシトメヌ、今吋ニモシトメヌ(11ウ) 処ガ、裡頭ノ却来也。処ヲ、恁麼ノ吋如何、ト云ガ、徹処ノミ羊也。那邊空王殿ト云ガ、本位也。在レトモ、守ヌト云ガ、却来也。

○偏正一致ヲ。代、黄河源頭濁了。師云、其コデ清濁クラ分チ来レ。代、當人何ンゾ弁ゼン濁中清。師云、其當人ヲ。代、張三李子。心ハ、偏正一牧ト云ハ、紫雲丹中人、還楊柳遊岐、ト云句ヲ、正体ニシテ心得タガ好イ。紫雲丹中ノ人ガ、還——遊ベバ、偏正一牧ダ。爰ヲ王道テハ、人日ノ節ト云イ、宗旨デハ、鷄挑共不上、トモ云タゾ。呈ニ、句モ、偏正未ツ一ツニ混シタ処ヲ、黄河源頭ヨリ濁リ了、ト云タゾ。爰ハ、ドロリト濁ツテ清濁カ分タレヌ。爰ヲ、宗旨増水ノ修行ト云タゾ。清濁ヲ分テバ當人何ンゾ弁ゼン濁中(12オ) 清ト云ハ、清濁未ツ一ツニ混入シタ処ニ、交ヌ物ガ在ルゾ。ト云ハ、偏正ニ落ヌ一物ノ一ヨ。此一物ニ當人セデハ。呈、爰ノ當人ト云ハ、何ゾ弁センクデ置タゾ。爰ノ當人ヲ張三李子ヨ。アノ肚裏ヲ取ツテ、那人ニ齊トモ云タゾ。亦洞上瞎眼耳鼻舌身意底ノ人トモ云イ、一種平懷泯然自尽肌ノ一ヨ。齊家デ、赤肉無位真人、瞎ツノ人ノ一ヨ。私ニ、偏正ノ二ツハ、偏ハ臣、功。正ハ、位、君。生得正ト置ズ支ナレトモ、其レデハ国下ヲ保タレヌ。呈、其ノ御座ヲ卒トヲモムキ、偏正ト云ガ、クツケ派也。

○目前ノ点側ヲ。代、春有百華、夏有涼風、秋有月、冬有雪。師云、其心ヲ春ノ百華ヲバ、夏ノ涼風ニユズリ、夏ノ(12ウ) 涼風ヲ秋ノ月ニユズリ、秋ノ月ヲバ冬ノ雪ニユズリテ走。心ハ、目前点側ト云ハ、春夏秋冬、桃紅李白ト、頭々物々ニ

点側シタゾ。呈、拳処モ四吋上テ点側シタゾ。

○外頭却来ヲ。代、今吋エ出ズルガ、外頭ノ却来デ走。師云、何人ガ去来シタゾ。代、妙圓無相劫前コト人、随テ類ニ權ニ分ニ百億ノ身ノ。心ハ、外頭ノ却来ト云ハ、本位ヨリ今吋エ出ルガ、外頭ノ却来也。是ハ、ナン人ガ却来シタゾ。ナレハ、本来人ガ、僧ト俗トモ、人畜蝦蟇（龍カ）トモ、類ニ随テ、百億ニ化シタゾ。如レ是化身シテ為ニ成ツタゾ。是ガ衆生化度ノ手、方便門ノ聞キ羊ク。三種ノ吋キモ、是ハ林裡君也。（13オ）

○那邊退得、這裡行李ヲ。代、到得却来無ニ別ニ更ニ、芦山烟雨（雨）逝（去）江潮。師云、其レハナントテ。潮ハ塩味ヲ作シ、水ハ冷味ヲ作ス。心ハ、宗旨デ、カツデ吞ンダ水ハ、冷ナト知ルハ、入頭ノ「ヨ。芦山ニハ烟雨、逝（去）江ニハ潮ヲト、向這李ニ行李シタ「也。

大成山普門院月江和尚ヨリ如此大更之唱也。

近頃之□□御座候。任尊意写申候。定而書落など可有候。刹角被遊□不申候て御用立申間敷候。以上

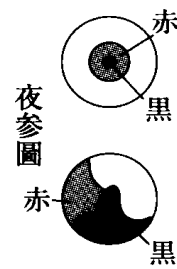
寛永拾七年拾月吉日

賀州金沢之住人

書之道白

理性坊様

資料編（二）「夜参」（大安寺所蔵『本来面目』）



夜参圖

此之圖ヲ能ク々々心得可レ在。

三朝三句ハ、皆々ススムベシ。

○一善入佛惠入處

自己之自己
智智不到之自己
那時之自己

二○通達大智徹処

自己智木到
智不到之々々
那時智木到

○三到於彼岸轉處

自己之那邊
智木到那邊
那邊之那邊

一入処トワ、○智不到デモ入ル

最初デ案山點頭
那邊デモ入り派。

○二徹處トワ
——自己デハ、法眼宗
○智不到デハ、独在ん

——那時デハ、主中主ん

——自己デハ、當着自己如冤家
○智木到デワ、功之点処

——那邊デハ、那邊退——
(李方)

○全迦和尚云、一、自己目前一致デハ、首句ガ、張公李公ト、人ノ体ナラバ、兼對デハ、臣ハ君ヲ兼、君ワ臣ヲ兼子、

○双對デハ、君臣合道ト出ス可キ。二首句ガ、懷州牛益州馬ト異類ナラバ、

○偏正兼對デハ、黒狗爛銀蹄、白象崑崙騎。双對デハ、狸狽白牯ト出スベキ。三首句ガ、寒山捨得ナラバ、偏正兼對デハ、文殊普賢、双對デハ、唯仏与仏ト出ス可キ。早竟山ワ山對シ、水ワ水對シ、人ワ人、異類ワ異類、佛ハ仏ニツイシ、最初凡ニ如レ此對セデハ、家風細密ノ宗旨デハアルマジキ。夜参ヲ行ウニハ、録ヲツゞケタ者。亦其外何ヲツゞケタ者ト尋ヌ可シ。傳衣ガ無クテハ、御影ヲ掛ケテ、大衆ガ依テ祝スルト云々ヲバ、(64才)知ルマイゾ。○無極派デハ、ツン出ノ案山点頭ト行ウ。捻ジテ露シテ秘スルナリ。○大綱派・五峯派デハ、案山点頭ヲ蔵ノ秘スル。○大綱派デハ、万機休——

携。○亦換骨脱体ノ、身心脱落ト出ス。在レドモ、心口ハ一ツ。亦安山点頭ト一ツ。○無極派デハ、自己ノ兼對・智不到兼對・那時之兼對ト行ウ。○大綱派・五峯派デハ・是ヲ秘ノ於イテ、自己ノ点処、智不到ノ轉処ト出ス。総ノ安山点頭、万機休——携イ、身心脱落、換骨——、是ラワ、一ツ句中ニ三位ヲ呈イスルナリ。取句ニワ、師家が三位之中ニ、ドコナリ凡一処ニ合テ取ル。

○安山点頭、安ワ、初之自己。頭ワ、点処。取句ニワ、東山水上行。亦須弥跳アドツテ入藕絲ニ。絲ワ、ハスイトノ。亦須弥岬ト舞ニ三基ヲ。岬ハ、フミエタ。此ノ如クノ句法ヲ取ルベシ。

○白雲功尽青山秀。白ワ、中々。功ハ、点処也。取句、白雲断処家山妙。白雲ハ、智不到ノ点処。又、暁天雲尽暮山秀。

○拶倒孤峰不白處。拶ハ、初之那時。孤ワ、那時点処。取句ワ、孤峯頂上留不住。又、孤峰頂上有出身路。如レ是三透凡ニ、山形ノ句法ヲ取ル可シ。亦、瑠璃殿上撲倒粉碎ス、ト云句ノ心口ワ、一ツナレドモ、山形ニ在ラヌホトニ、悪キ。三ツ凡ニ、点処ト出ス。如レ是前ヲ出ス時キワ、法眼宗ノ自己ワ、○百性性日々用名ヲ不知。百性ワ、中之自己。不知トハ、点処。取句、百性日々々々ヲ不知。又、百性

其ノ徳ヲ不知。又、吾胸中美玉有、不知。如是意ノ句ヲ取ル可シ。用不知ト云ワ、月明——ト云句法也。

○月不知明月秋。中知不到。秋ワ、点処。取句、當頭半月、東西無分処。又、團々秋光不知圓。如是句法、ヨキ。同ジナレドモ、一辺ノ氷輪上下圓、十分ニワアラズ。不知ト云ヨリ、不存ト出ス。

○王不存王位。王ワ、中ノ那時。存ワ、点処。取句、君王有、位忘其位。又、天然帝(64ウ)位ニ不存貴。又、妙体堂々不知其位。三ツ氏ニ、天然ノ自己、天然ノ知不到、天然那時也。三ツ共不尽。

○懷刃牛喫稻、益——脹。懷ワ、終之自己對々。河南犬吠河北馬鳴ス。又、栖州馬喫稻、福州牛腸飽ル。如是句法ヲ取ル可シ。三ツ氏ニ異類ノ句法ヲ出ス。

○黒狗爛銀蹄、白象驛崑崙。終ノ中、黒白兼對。取句、黒狗与白象、相逢語悉達。又、黒狗踏雪走、白象夜半移步。又、黒狗迷明月、白日行崑崙。如是句取ルベシ。

○三世諸佛不知有、狸狽白牯却知有。三世ワ、終之那時。諸仏ワ、尽。狸ワ、不尽。白牯トワ、不尽、師本不二對。取句、七佛ノ如来不及処、狸狽白牯正合頭。又、不知有却成知有、始信南泉喚作牛。亦云、自己對々、人ノアル句ヲ出セバ、知不到、兼對デハ、文殊・普賢ヲ出ス。那時デハ、迦葉ヲ出ス。

○薪尽火滅。薪ワ、初ノ自己点処。取句、燒火如杖々。又、無用處。又、紅炬大尽薪不添。又、木中如生火、々出木尽炭知烟滅。如是メ經文出セバ、九ノ透リトモニ出ス。取句ニワ、經文バカリナキホトニ、意句相應ノ句ヲ取ル可シ。是レワ、句法別ナレドモ、心口ハ一ツ。自己ノ点処。点ズレバ、知不到。

○唯独自明了、餘所不見。唯ワ、中更。取句、有時独座孤峰頂。又、突兀嵯峨万仞橫、四邊無路不通行。

○從冥入於冥。從ワ、那時。取、夜半子混時。又、三更初夜月明前。如是出ス時キ、法眼宗ノ自己デワ。

○如稻麻竹葦、充滿十方刹。如稻ワ、中ノ自己。取句、有情非情同寺成道ハ、亦知不到デワ。

○如淨瑠璃中、内現真金像。如淨ハ、中ノ一。取句、宝天雲漢銀河冷。又、雲ワ有青天、水在瓶。瑠璃ト云ヨリ、銀河、瓶ト云句ヲトル、不点。河ト云イ、水ト云ワ高。瑠璃中デ、金像、高處ヲ見ルナリ。(65オ)法眼宗ノ智不到ナホトニ、ミガトヌ。

○安穩豐樂、天人熾盛。安穩ワ、中那時。取句、獄驢定出舟山血。一搯在手。

○心佛及衆生、是三無差別。終ノ自己對々。心佛ワ自己、衆生ワ目前。無差別、一致。サテコソ、自己對々。達磨是觀音、諸公是觀音。又、全心即佛他、全仏即人々、仏異

始得道。二位ガ一位ニナル句ワ、ヨキク。一位ガ二位ノ句、悪キク。仏体ノ句法ナホトニ、如レ是ヨキク。亦タ中之黑白兼對デワ。

○父少而子老。終之中之「一」へ。取句、父攘^バ羊子以蔵^レ之。父ワ、黒頭^{クニ}く。子ヲ白頭^{シロ}取^ク。チ、少ト見レバ、黒^{クニ}白頭^{シロ}ノ資^{スガ}タアリ。亦子ヲ老ト見レバ、白頭^{シロ}ニ黒頭^{クニ}ノスガタ在リ。時、黒白兼對^クく。如レ是句法ヲ取ル可シ。

○唯佛与仏、乃能究尽。終之那時ナリ。取句、日面仏月面仏。三世諸佛——狸狢——有^リ。如レ是句法ヲ取ル可シ。初メヲ如レ是、薪尽火滅ト出シタ依テ、九ツ氏ニ經文^ク。竜州和尚如レ是扱イ在^ク。

○樹倒藤枯笑呵々。樹倒ワ、自己^ク。一州ノ透リ、共点^ト処、ドツチエモ。取句、風定花猶落。又、罷^レ休^ル得^ル曾^レ罷^レ休^ル。又、万機罷^レ休^ル、千聖不携^ル。又、休去歇去。樹倒ル、トワ、自己當頭也。藤枯トワ、自己ヲモ放下^ク。ホトニ、是ヲ自己ノ二皮^{カウ}ヤブリ、ト云^ク。取句モ、如レ是取ルベシ。

○深固幽遠、無人能到。又、曹溪古路無別人。又、茅屋路遠行者稀^ク。如レ是句法ヲトル可シ。知不到^デワ、樹倒ルト云ヨリノ、深——遠シト云句法アリ。深——遠ナホトニ、無人能^ク。

○紫羅帳合四臣不通。深固幽遠ト云ヨリ、紫羅帳ト云句法^ク。

無人能到ルト云ヨリ、信不通ト云句法ヲ出ス^ク。取句、室密不通風。又、星前人千聖不^レ有^ル室。又、深々密々不^レ通^ル風。又、黄閣^{コウ}簾垂^テ全体未^レ頭。如レ是句ヲ取ル可シ。

○百性日々用不^レ知^ル名。百性ワ、法(65ウ)眼ノ自己^ク。用ワ、信不^レ通ト云ヨリ、名ヲ不^レ知、尽クサヌ自己^ク。百性ノ胸中ニ玉ライダイテ、シラヌゾ。時キ、玉ニキズ無シ。知ルガ、キズ^ク。取句、老蚌懷中珠有^リ不^レ知。又、埜花香滿路、幽鳥春不^レ知。又、東方説法東方如、泥裡老蚌含^ム明珠。如レ是句法ヲ取可シ。

○清波不^レ犯意自異^ク。中之「一」へ。取句、月船不^レ犯東西岸。又、明月團々夜正半^{ニテカバ}く。又、古渡風清月正半^ク。用テ不^レ知ト云ヨリ、不^レ犯ト云句法^ク。ハコバヌ不到^ク。不点^ク。如レ是句ヲ取ベシ。天上天下——尊ト云句モ、同ジ「ナレドモ、句法ヲ取ル可シ。

○王道太平無忌諱。縦横何処、中那時^ク。取句、懷合乾坤^{ハツ}胡勢^カ隆。又、妙体雖^モ金裡^ニ坐、其ノ懷隨^フ万化端^ニ。又、太平ノ一曲^ク通^ル四海^ニ。又、八方有道君——四——喝。不^レ犯ト云ヨリ、王道太平ト云句ヲ出ス^ク。是レワ、三位ニ卒度モアラタメヌ^ク。不^レ尽ノ自己、不^レ尽ノ知不到ノ那時^ク。

○看^ニ自己^ヲ如^ク冤家。三ツ目ノ自己^ク。取句、當頭觸着^ル弥天罪。又、機不^レ離位、毒海墮在。又、一句合道語、万劫繫^ツ驢^ツ。如レ此ノ透リノ意ノ句ヲ、取ル可シ。是ヲ、点^ト処ノ自己^ク。

○鶴出銀箆冲霄漢。鶴ワ、三ツ目ノ中ノ一々。箆ワ、点処へ。取句、老鶴——空。又、退歩兼當独地新。又、琉璃殿上撲倒粉碎。又、金竜不守寒潭。

○那边退得、這裡行李。那边ワ、那时ノ点処へ。取句、撈倒空王殿、却来弄風光。如是ノ意句相應ヲ取ル可シ。

鉄○鉄樹放開花。初メノ自己へ。鉄銀金ノ透リ、点処之自己へ。自己ニ死在イセヌへ。取句、鉄船浮水上。亦夕、倒騎鉄馬踏虚空。又、鉄團走東海過。如是句ヲ取ルベシ。

銀○鶴出銀箆冲霄漢。鶴ルワ、知不到へ。点処之不到、知不到死在セヌへ。取句、玉開氣寒、鶴出銀箆。又、密移一步、鶴出銀箆。如是意句相應ヲ取ルベシ。(66オ)

金○金殿堂々深幾重。金ワ、那时へ。殿ワ、那时モ死在イセヌへ。取句、金鎖重々推不開。又、金殿堂々珠簾深。如是意句相ヲウヲ取ルベシ。三ツ氏ニ点処々々ト心得ベシ。如是ノ時キ、法眼宗ノ自己ワ、鉄銀金、尽十方一顆明珠。尽ワ、中之初ノ自己へ。取句、野菊含金——口頼。又、玉マ本ト無瑕——徳。又、不知泥裡蚌、滿腹是明珠。又、心外無法、滿目青山。又、我有一言——山。金ヲ含ムト云ヨリ、明珠ノ句法ヲ出スへ。心外トワ、是レワ、ニツワ同ジ透リナレドモ、句法悪キホトニ、取ル可カラズ。

○銀河清無波、半夜月橫秋。銀ワ、中知不到へ、ト云ヨリ、

銀河ヲ出スへ。取句ニワ、横河漢、白霜洗斗牛寒。又、釣絲半夜休拈弄——水月秋。又、只有照壁月、更——有。又、夜静水寒魚不食、滿——暇ル。只有——ワ、同ジ透リナレドモ、句法悪キ間ダ、取ルベカラズへ。又、金輪天子、自有徳高金也。金輪天子不覺帝徳。金輪ワ、中那时へ。天然ノ位イへ。自己ヲモ天然不盡自己へ。不盡不到へ。法眼ノ三位ノ心ナリ。取句モ、金輪雖在其位肯知其威。前ノ金リン、コトへ。

○雪月芦花同秋空。雪月、終ノ自己へ。取句、花簇々錦簇々。簇ワ、ムラガルトヨムへ。錦上鋪花。雪月芦花ワ、尽へ、目前へ。秋空ワ、不尽へ、自己へ。内イトワ、目前一致へ、自己對々へ。取句ハ、花ノ類ヲ取ルベシ。亦爰ヲ前エヨリ鉄ノ句法ヲ出スベキニワ、竜泉刀斧本是同鉄。竜ワ、鉄ナリ。同鉄ト出スへ。鉄ワ、自己對々へ。此ノ時キワ、九透り共、鉄銀金ト出スへ。是ワ、鉄へ。

○一色盤平有異玄。一色キワ、終ノ中ノ一々。取句、水帶陰花——青。是ハ、知不到ノ對々へ。是ワ、白有黒、々有白、限有陽、々有陰、黒白兼帶へ。亦前エヲ、竜泉(66ウ)刀——鉄ト出セバ、爰ヲモ黒銀へ。又、狗黒爛銀蹄、白象——騎トワ、銀ト云ヨリ出ス、對々へ。

○始覺本覺去休々。始ワ、終ノ那时へ、雙對へ。始本不二へ。取句モ、花ノ類イデ、師本ノ聞ユル羊ナヲ取ルベシ。取句、

蔡花向月——風。臥輪ワ尽、惠能ワ、不尽。始本一盤。爰ヲモ竜泉刀——同鉄ト、前エデ出ダセバ、蔡花ワ類イワ、柳暗花明。十方戸——ト云句モヨシ。金針双鎖帶ト出ス。金ワ、金。

○宏智和尚像自讚云、吾此宗旨鉄銀金。又、雪月芦花同秋空、一色盤平有異玄。又、始覚本覚去テ木々。夜参ワ、初メ三ツノ意句法ヲ以テ出ス者ナホトニ、如此出ス。亦タ知色キニ依テ、初メ三ツノ中三ツヲ鉄銀金ト出セバ、三ツ目ヲモ鉄ノ句法ヲ出ス也。其ノトキワ、竜泉刀斧本ト是同鉄デ。

又、黒狗爛——白——崙。又、金針双鎖帶。文彩縦横。

○鉄樹放開花。代、師ノヒタイニ我ガヒタイヲ打合セテ、アツト云テ倒ル。師云、何タル時節ダゾ。代、眼目ノクルリト回ワルサカイ、心花發明デ走。師云、句ヲ。代、風定花猶落。師云、風ノ定メ羊、花落チ羊ヲ。代、師ノドロ実トシムル。師云、何トテ。代云、把断要津、不通凡聖。師云、花鳥的句ヲ。代云、氷寒千丈急生連。

○竹寺閑過春——深、落——色ヲ。代、花ヲサ、グル者モ無ク、問イ来ル人モ走ヌ。師云、夫レワ何タル一処タゾ。代、無人能到デ走。師云、句ヲ。代、深固幽遠無人能到。師云、花鳥端句ヲ。代、閑庭——無佛、黄花報幽居。○宝殿不見人、百鳥含花不献、ト云ヲ。代、曾テ尊貴ノサタモ無クンバ、ヘル臣下モ走ヌ。師云、何ンタル一処ダゾ。

代、尊貴(67才)不施設、誰人得性名。師云、其ノ句ヲ説破セヨ。代、尊貴在リ、性各ノアルハ、位イ定ツタ主コソ。師云、的句ヲ。代、古堂寂寞無人伴、含花白鳥遠簾前。○中自己。江國春風吹不起、鷓鴣啼在深花裡。師云、春風ヲ。代、祖風走。師云、吹不起ヲ。代云、野老大良デ走。師云、啼キ羊ヲ。代、句ヲ。滿胡仏性不續為長不截、柳体嬾鶯不_レ知春。類則ヲ引テ云、一粒在荒田、不_レ耕苗自秀。師云、一粒之端的ヲ。代、你太郎ガ境界デ走。秀デ羊ヲ。代、二郎ヨツ太郎ヨツ。

○中知不到。當処便是鳳凰城。代、大口忘焚シテ坐スル。又兩手展開ノモ坐ス。ニタ羊テ在リ。師云、鳳凰城ワ、何ト聞エタゾ。指ヲ以テ吾ヲ指ノ云ク、是這个。師云、句ヲ。代、清波——異。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、湛_レ坐、這裡鳳凰城。同、當処——城ヲ。代、兩手ヲ——ノ坐ス。師云、夫レワ、ナントテ。代、清波——犯処ガ黒クデ走。師云、花鳥ノ的句ヲ。代、唯前坐便是鳳凰。

○不_レ種梧桐、免鳳来宿。代、手ニ坐具デモ、珠数デモアレ拈ジテ坐。師云、其心ヲ。代、主ノサタノ無イ主デ走。師云、句ヲ。金殿臥清風。師云、花鳥ノ端的ヲ。代云、月鎖蒼梧鳳不_レ栖。同、不種——ヲ。主相無時キ、終イニ出デ走ヌ。師云、證_レ抛ヲ。金殿——臥。師云、花鳥ノ的句ヲ。代云、吾園無梧桐、争令鳳凰宿。

○花簇々錦簇々ヲ。代、花モムラガリ錦モムラガツテ走。師云、是什麼物ゾ。代、我旨ヲ指シテ、此ノ一心ンデ走。又云、此一心ガ像ト体ヲ帶テ走トモ。師云、兼對シ羊ヲ。代云、(67ウ)自己ハ目前ヲ兼、目前ハ自己ヲ兼デ走。師云、句ヲ。代、三界唯一心デ。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、春自雖レ分南枝、早竟枝梢共一根。類則ヲ引云、野狐ノ本形ヲ。代、此心デ走。師云、墮シ羊ヲ。代、花ニモムラガリ、錦ニモムラガツテ走。師、句ヲ。代、有二老人變作ニ万物。

○水帶限花香、烟和楊柳青。代、正ワ偏對シ、偏ワ正對ノ走。師云、夫レワ何ントテ。代、水ガ帶限花、烟ガ楊柳和ノ走。師云、徹処ヲ。代、偏正兼對イト云ガ、曹洞ノ兩手兩脚デ走。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、柳暗花明十萬戶、敲門処々有レ人鷹。師云、偏正兼對イヲ含マセヨ。師云、正ヨリ偏ヲ敲バ、偏鷹、偏デ正ヲ敲バ、正鷹エテ走。同、水滯一ヲ。代、偏ワ正ヲ兼子、正ワ偏ヲ兼テ走。師云、柳暗一。師云、其ナントテ。水帶限花、正中偏、烟和楊柳青、偏中正デ走。師云、句ヲ。柳一。師云、其句ノ證拠ヲ説破セヨ。代云、正ワ偏ニコタエ、偏ワ正ニ答エテ走。

○世尊拈花、迦葉微笑ヲ。代、師ノ膝ノ上足ヲアゲテ、ビ毛ヲ取り結ンデ、師ノ口チ我ガ舌ヲ入レテ坐ス。師云、代句。云、上和下睦。陰陽相隨。師云、花鳥ノ端的ヲ。代、鷲不萌枝、微笑開花盛。類則ヲ。世尊陸座、文殊白槌シタ幾ヲ。

師ノ口チニ吾舌ヲ入テ坐ス。師云、夫レワナントテ。代、過去久遠憶切ヨリ約ダクデ走。師云、諦觀法王、々々如是ト云幾ヲ。代、無為為、無妄ヲ妄、為。亦夕、師云、聖諦第一儀ヲ。代、妙一漚、有先、豈先聖入、眼。師云、廓然無聖ヲ。代、曾不レ知。師云、恁麼時如何。代、抽身。師云、至道無難ヲ。代、揀擇無レバ、只ダ張李子、狸奴白牯マデ、走。師云、老僧不レ在明白裡ト云ヲ。代、喫尽体無位、通身大道。師云、同ジク示衆(68才)シ羊ヲ。代、ナンデモヲツトツテ、サシアグル。師云、夫レワナントテ。代テ、無吼ノ鉄鎚デ走。

永昌寺花叟派ノ大事。亦夕云、真如寺全金和尚ノ夜參モ又タ如此。

○安山點頭ヲ。代、師前エニ、眼・耳・口ヲ、アツカト開イテ坐ス。心得ハ、自己當頭デ、直点ジ羊。師云、句ヲ。代、頑石點頭。心ハ、未當々ワ、頑石。點頭自己ヲ点ジタク。師云、透リ句ヲ。代、大花山立希有。又、東山水上行。此透リノ山形ノ句法ヲ取ルベシ。

○白雲功尽青山秀。代、師ノ前テ、トツクト坐シテ、卒度眼コヲ開イテ、背口ヘ子ノビノ如クニスル。師云、句ヲ。代、澤功尽暮山秀。心ハ、自己當頭デ、意識々上ノ出デヌガ、安山。ソコヲ肝要トモタヌ境界ガ、自己真正淵源。ソコガ

便チ、智不到也。白雲ノ功ワ、智不到。トツクト坐ノ処。ソコロモ楽マヌガ、功尽キタ。カシコエ秀タ。句モ、自己デ風波ガクツト収ツタ境界ガ、渊源澄澤。ソコロモ楽マヌト、暮山秀ツ。カシコガ本位点ジタ。透リノ句ヲ。白雲断処口家妙也。

○了々透過深山外ヲ。代、師ノ前ニ、坐具持シテ、卒度眼ヲ開、背ロエソル。心ハ、始メノ了ワ、直安山ナツタトキ、自己ヲ明了。點頭自己透過。処ガ、知不到。功尽知不到ノ了ジ用。処ロガ、青山秀ツ、那时、深山。ソコロモ楽ヌトキ、外カエ点ジタ。師、句ヲ。代、誰知雲外千峯上。心ハ、誰レガ知——峯ハ、一ツ。外イト云イ、上リト云ワ、青山本位。透リノ句ヲ。代、正坐正ト不樂、王々位ヲ不存。

○尽十方一顆明珠ヲ。代、師ノ前デ、眼ヲアツカト開イテ坐ス。師云、恁（68ウ）麼時キ如何。代、無吼ノ鉄鎚當面抛ツ。師云、句ヲ。代、野——王。心ハ、柳モミドリト不知、花モ紅イト不知、トキ一顆。知レバ、キズ。拳派ガ産出ノ佟デ、支ノ出ヌ肌エ。無吼ノ透リノ一句、百性日々用不知名。

○銀河清無浪、半夜月橫秋。代、波浪中妙デ走。師云、恁麼時如何。代、咄、坐ス。心得ハ、銀河——無イ処ガ、一色知不到。爰デ月ワスラズ、初生月デ高イゾ。半夜ノ月タゾ。

ドツチエモ傾カヌ。師云、句ヲ。三千刹界一成秋、明月——照。

○金殿堂々重幃深シヲ。代、咄、坐ス。心得ハ、是ワ、内紹不出。天然ノ位ニソナワツタゾ。王堂々トノ金殿——ルニ、傾ク方タガ乱ゲキスルゾ。咄坐ノトキ、冠リワ傾カヌ。此ノ時キ、東夷・西域・南バン——、マコト羊収タゾ。宗旨デワ、悟リガ乱ゲキ。支ノ出デヌ肌エガ、本有太平。是レガ、六祖ナドノ御修行ト一ツタゾ。神秀ワ、収メテゴ——ル。師、句ヲ。玉簾深垂全体未露。重イ深イト云ヨリ、長季不出戸ト云。

○芦花——空。代、尽在ル不尽デ走。師云、不尽境界ヲ。代、突兀トノ坐ス。心ハ、芦花・霜月ワ、目前、自己目前一致也。秋空ワ、空劫已前ノ自己。芦——同ケレバ、自己目前一致。芦——月ワ、尽ノ功。秋空ワ、不尽。空劫ヨリ芦花霜月トモ出テタト見レバ、尽ガ不尽。目前アル自己。咄坐ワ、本分ノ境界。師云、句ヲ。花簇々錦簇々。心ハ、根本ヨリ花ワ花、錦ワ錦、簇々也。向ウ千變万代シタガ、本位ヨリトミレバ、目前ニ在ル自己タゾ。

○一色盤中中有異玄。代、黒ニ在ル白、白在ル黒、隈アル——ンデ走。心ハ、黒白兼對。知不到。爰ヲ、將軍家ト王道ト云。將軍ワ、禁中ヲモ東マヲモ欠カズ収ル。師云、（69オ）境界ヲ。代、突坐ス。心ハ、坐夕人相ワ、偏、在レド

モ、卒度モ更ノ出デヌトキ、根本ノ正位デ居タゾ。トキコソ、偏正兼對ダ。師云、句ヲ。云、水滯隈花香。心ハ、水ワ隈。花ワ陽。帯レバ、隈アル陽。時キ、兼對。○至覚本覚去休々ヲ。代、至学在ル本学、々々在ル至学デ走。師云、句ヲ。代、葵花向日——風。心得ハ、去休々、一盤双對イ。六祖ト神秀ノ至到ノ節角ヲ以テミベシ。

快庵派夜參。大更々々、秘密々々。

△夜參。鐵銀金。師乞云、鉄ヲ。代、突兀トノ坐メ、手ヲ拍ノアツト云テ、ノツケ倒ル。へ点処也。師拶云、句ヲ。代、鉄樹放開花。師云、早竟ヲ。九拜。

○師乞、銀ヲ。代、突ツクト坐メ、地ヲ丁度打テ、仰面スル。師、句ヲ。代、鶴出銀籠沖霄漢、銀籠飛出老鶴兒。心ハ、知不到ニ滞在スルナ。又、玉馬飲——地。此ノ句モ同ジ更ナレドモ、主ガニツ在ルホトニ、前エ斗リ取ルベシ。師云、早竟ヲ。九拜ス。

△師乞金ヲ。へ王々位不存。主主相無シ。此トウリヲトル。代、忘焚坐徹メ、旨ヲ打アツへ点此。師云、句ヲ。代、万季松下打金鐘。師云、早竟ヲ。九拜。

△師云、鉄ヲ。へ点処。十方三世一團鉄。是ハ、鉄斗爰エ合ル心得アリ。代、無孔鉄鎚抛當面。師拶云、抛チ羊ヲ。代、生ガ死デ走。師伝、其境界突兀ノ坐徹。師云、早竟ヲ。九拜。

△銀ヲ。代、銀河清無波、半夜月横秋へ知不到中。白銀世界。銀合大ジ。月舩——岸トバカリミルハ、アシイゾ。當々不点。師云、拶説破ヲ。代、波浪中妙デ走。師云、其境界ヲ。代、突兀ノ坐ス。師拶早竟ヲ。代、九拜。

△師乞、猶再拳子細看、鉄銀金、代、忘焚坐。師云、早竟九拜。△師乞、金ヲ。代、金殿堂々重幃深。師云、説破ヲ。代、頭ヌカデ走。師拶云、其ノ境界ヲ。爰コマデラツル。定メヲ。

代、清虚無三ツデ走。師云、三位ヲ(69ウ)揃テ着語ヲ。代、寒炉無火——堂。師云、三位ヲ取り分ケテ云エ。代、左ヲミテ云ク尽、右ヲミテ云尽。末向ヲミテ尽。又手低頭メ坐。

師云、正當什麼時節如何。代、托開云、一鏃破三関。心ハ、今マ在タデハ無イ、心ハ、大更々、對帶。師乞云、芦花雪月那一色——秋空。代、只ダ忘焚メ坐。師拶云、着語ヲ。代、唯独自明了、余之所不見。師拶、其レワナントテ。代、雪月ヨリモ潔白デ走。師云、曹洞ノ家ヲ、其コニ斗リシメテ、其境界ヲ離レテ一句。代、鷺鷥立雪不。自知、明月芦花不似他。師拶云、説破ヲ。代、鷺鷥白ト思ウ心モ無ク、雪モ無ケレバ、不。同色、不似他デ走。亦、花簇々錦簇々ト云モヨシ。自己一色デ、兼帶ヲ沙汰スルゾ。ホトニ、芦花・雪月ワ、

尽自己ノ主。夜水——空ワ、不尽。アルガ、尽不尽ニ滞在セヌゾ。此ノ首句、知不到ノ句ナレドモ、夜參ニ合デワ。自己一色ト出ス。師云、一色盤平有翼玄。代、清白十分田地、

即無処玄妙ノ頂キ。へ功ニアル黒、々ニアル白、陰ニアル陽、々ニアル一色デ、黒処ヲミルゾ。師云、一色分上デワ、何トシタゾ。代、忘然トノ坐ス。云、何_レ氏_レ届ケノ無イガ、那时ノ玄妙デ走。或ハ、銀盤裡ニ妙処アリト云、透リノ句ヲ取ル。黒白有無是非兼對ナリ。師拶云、何トテ。代、電内ヨリ玄妙頂キエ、ツト入テ走。師云、拶、其レハ点ノ一ヨ。代、白イヲツトツメテミレバ、黒デ走。心ハ、点セヌ也。白色ニ突クト見入テミヨ。末黒ロニナルゾ。師乞云、始学本覚去_テ休々。始覚本覚ノ定ヲ。代、清白田地ト持ツワ、始覚即無処玄妙ノ頂キトモタヌガ、本覚デ走。師、マダモ聞エヌゾ。修心ノ功ト、無心ノ功デ走。師云、毫釐差ヲ。代、始——覚デ走。師云、何トテ、休々トワ云タゾ。代、修心ノ功トモ無心ノ功トモ持ヌトキ、去テ休々、始——不二デ走。師、是什麼境界ゾ。代、良久ヲ。修心々トソツ□ト、手脚ヲソツト展ルん。(70才)師云、一心分上デハ、何ト云タゾ。代、一个木人ト持チ走ヌ。師云、早竟如何。代、那边退——行季。九拜。師云、那边——得ヲ。代、良久。師何トテ、至本性地、本有ノ明メデ走。師云、性本心ヲ。代、無念無相ニノ、無相トモ持チ走ヌ。師云、這——李ヲ。代、心王不_レ動八方ニ通ス。心ハ、躰ノ字ワ、本身ト書クナリ。ホトニ、那边屋裡ヲヨク明メテミレバ、ドツコモ此ノ一物ナリ。這_レ行李_レ。無極和尚ワ、那——履ト出_レ、代ニ、位裡隱座_ノ心合_ニ三_ノ萬_ノ國_ト被_レ成_タ夕。

亦一説ハ、師乞、那——得ヲ。代、忘然。師云、這裡デ行李ヲ。代、在_ニ其_ノ位_ニ、ソノ位ヲアルト知ラ子バ、這裡ニ行李デ走。古老代、叔成_ニ夫子_ト——漢。心ハ、那时・那边ニ徹底シテ、シタト知ラヌ時、野老・山翁・漁人_レ。愚_ク暗_ク昧_クノ境界_レ。此ノ時、双對ニモ成ルベシ。別一説、師乞云、那边這裡——李ヲ。代、只死ウ迄デ走。無極和尚代、稼_ノ穡_ノ艱_ニ難_ニ總_ニ不_レ知_、五帝三皇は何物。心ハ、稼——難_クヲモ知_ラヌ、五帝三皇モ難_ク免、這_レ行李_ヲ、死ウ迄デヨ。繩床——侵_スト云ワ、目鼻ノシルガタリ、老衰_ノ死ウマデヨ。此ヲ好キ器ト云タゾ。這——李ヲバ向ウ心得サシ。古則雖_レ多、先師ノ云、馬祖不安ヲ引クゾ。近日尊候如何ト問タル幾ヲ。代、同病相恰_ク。師云、日面仏兮月面仏。代、夜ノ明ルヲバ明ル任セ、日暮ルヲバ暮ルニ任デ走。師云、何トテ。代、只_レ死ウ迄デ走。師拶、早竟ヲ。代、嘯_ク空_ニ。心ハ、爰ガ本脉_レ。這——李ヲ、双對_ク。保寧ノ頌モ、蒲團上端座、針眼裏穿_レ線。西風一陳来、落_レ葉_レ兩_レ三_レ片。三ノ句ワ、坐_ク。三四ノ句ワ、風吹又間_ク。只取ウ迄デヨ。△絲子門——旨如何。添塩索酸_ク心。心ハ、老衰_ノ死ヲ迄_ク。焚_ク者、添——酸、比ノ生ヲ養_レ胡_レシ羊_レ迄_レヨ。代モ走_タ。添——迄_レ急切_クダナ、五帝——在_タ夕。陽枝、五帝三皇モノガレヌ、夕陽(70ウ)タゾ。△師云、鐘未——堂ヲ幾ヲ。代云、徹底忘却デ走。師拶云、忘却ノ人成_テ云エ。代、夜ノ明ヲモ不_レ知、日暮ヲモ知_レり走ヌ。師云、即_チ販_方丈_ノ德_山ナリキツテ云エ。代、鐘子

ガナツタト思ヲウタレバ、忘却ノ処句ヲ。代、風吹柳——飛。
師云、岩頭拳似。頭云、大小徳山未會^ニ末后句^ト云タル幾ヲ。
代、死ウズ^トモ知り走ヌ。師云、山間^{イテ}令^ノ侍——岩頭密^ニ其ノ意
ヲ啓シタル幾ヲ。代、チツトモ死ウズ^トヲ知り走ヌ。是ワ、
這李行李^ク。

行李ヲ一々^ニ問セテ、趙州布衫ヲ以テ、(71ウ)此ノ切紙ヲ出ス
ク。
△花叟派・密參派^(山カ)・就^レ中快庵派大倫用之。門佐和尚授傳関達
禅者如今某甲

△黒狗爛銀蹄ヲ。代、夜ノ明ルヲバ明ル^ニ任テ走。白像崑崙騎
ヲ。代、日ノクル^トヲバクル^トニ任セテ走。師云、於^ニ此^ニツ
無碍^{ナリ}ヲ。代、チツトモ碍リハ走ヌ。師云、木馬火中嘶羊ヲ。
代、空嘯^ニテ、只ダ死^ヲ迄^デヨ。心ハ、木馬ハ、無心^ク。無碍
ノ境界^ク。洞家ノ^トダトテ、何ニカ黒白ヲバ塗り回サウズ。
サテコソ、頂キノ贊^サナレ。マダ你ジ能護持セヨトワ、死ウズ
^トヲ肝要ニ護持セヨ。向上ノ一窮ト云モ、軌則縫[□]モ無^一
境界、只ダ死ウ迄^デヨ。△瞎^馬滅却ヲ。代、只ダ死ウ迄^マデ走。
△所作皆已弁、既^既知到涅槃。代、只ダ死ウズマデ々走。△万
法皈一ヲ。代、最初^デ走。師云、何レノ処タゾ。代、末後^デ
走。師云、我有青州一——七斤ト云タルキヲ。代、南無三寶、
只タ死ウ迄^デ走。衰ノ伎倆モ尽テ、一兩ノ布衫モアゲ得ヌ
境界^ク。這裡行李ノ透リ^ク。類則類ヲ不^レ知、心得大叟。
大輪派密極^ク。快庵派就中^レ了庵・無極・月江・花叟・快庵・
大輪、祖々相傳。

夜參傳受之時、嗣法之弟子被示者^ク。廿七夜ノ早竟^ニ、双對
ヲ出^トワ、我が家ノ大叟、衲僧早竟ノ行李^ク。從^レ是前、這裡

資料編(三)「曹洞三位注脚」対照表

<p>無極和尚三位注脚 (大安寺所蔵「不出戸」)</p>	<p>「三位之次第」 (大安寺蔵「本来面目」)</p>	<p>「曹洞三位注却」 (叡山文庫蔵「禅林鈔」所収)</p>	<p>「曹洞三位之注却」 (松平公益会所蔵「洞水逆流」)</p>
<p>△無極和尚三位註脚也。 先づ自己ト云ニ、多ク説ツ在之。 自己目前時キノ自己ハ、境界ヲ指シテ云タゾ。亦、空劫已前自己ト云ガアルゾ。空劫以前ノ自己ト云ハ、トツト向上自己ト云ヨ。最初自己ト云ハ、五尺境界ヲ打ち破ツテ、一息截断ノ境イラ云タゾ。石ヲ虎ト見、弓影ヲ蛇ト見ル當頭ノトヨ。將軍射得南山虎。直ニ石ヲ虎ト見テ、放ツ処デ、クツト射透シタゾ。亦、天上弓影ガ盃中落チタヲ、直ニ毒蛇ト見タゾ。是レハ、ドレモ、端的當頭トヨ。爰ヲ、自己當着最初皮破リ得道ト云タゾ。以后ニ、醒シテ見レバ、弓影デ在ツタヨト見、石デアアルヨト見タゾ。</p>	<p>三位之次第。 三位ト云ハ、自己・知不到・那時。 師云、自己ト云モ、多ク説アリ。自己目前ノ自己ト云ハ、境界ヲ指ス。亦、空劫已前ノ自己ト云変アリ。先づ三位ノトキノ自己ト云時ハ、五尺ノ境界ヲ打破シテ、一息ヲ截断スル境イナリ。其ノ境ト云ハ、石シ虎トミ、弓ミヲ蛇トミ、雪キヲ梅花ト見タゾ。天卷ヲ轉ジ、地軸ガ回ラズ、宗旨ノ大錯ノ眼ト云タゾ。ホトニ、初最。爰ヲ、夜參ノ自己ト云タ。師云、自己ノ當頭ヲ云ワシ。学、師ノ前ツト入テ、ホカト一喝放身ス。心ハ、一喝ノ當頭、万機ヲ休罷。放</p>	<p>曹洞三位注却。先自己云多説アリ。自己目前時自己ワ、境界ヲ打破ノ、一息切断境。ホトニ、石虎トミ、弓影蛇見、雪ヲ梅花ト見、天卷点地軸カヘスヲ、最初大錯云。</p>	<p>△曹洞三位之注却也。自己ト云ニ、多クノ有レ説。自己目前ノ時自己ハ、境界ヲ指スナリ。亦、空劫已前ノ自己ト云変有リ。三位ノ時ノ自己ハ、五尺ノ境界ヲ打破テ、一息ヲ引キル圪イ也。呈、石ヲ虎ト見、弓ヲ蛇ト見、雪ヲ梅花ト見、天卷ヲ轉ジ、地軸回スヲ、最初ノ大錯ノ眼ト云ナリ。</p>

石ヲ虎トミ、弓影ヲ蛇トミ、火ヲ水ミ、天ヲ地トミルタツチヲ、宗旨デ、最初錯ノ眼、ト云タゾ。

身、尽クヤム。

爰ヲ、案山點頭、万機休罷ト云。又、大休大歇。又、露柱點頭、三千里外走。又、大華山立叫。希有。又、堂前露柱叫。又、樹倒藤枯。心ハ、語黙・背觸・有無・生死ヲ、クツト踏放ナス端的ガ、ツト無(21オ)端依テ、見定メガ無イゾ。此句中デモ、有無照破脱情塵トモ云イ、大休大歇ト云ハ、削リ派デ、同ジ最初句デモ、心得ガ別ゾ。有無ヲ照破シタ処ヲモ、情塵ヲ脱セヨ。大休処ヲモ重テ歇ト云ハ、針頭ニ鉄ヲ削タリヨ。是ヲ、當頭ノ自己ト云タゾ。爰ヲ、自己悪波ミトモ云イ走。呈ニ、宏智モ、渡来洩与、危者折花當、トヲセラレタゾ。心ハ、大唐虎

師云、徹底ナラバ、透リノ句ヲ引カシ。代云、安山點頭。○万機休罷。○犢牛生兒。○有無照破脱情塵。○大休大歇。○樹倒藤枯笑呵々。○露柱點頭三千里外走。○大花山立テ叫。希有、堂前叫湫々。此透リノ句ヲ引ク也。是ワ、最初足土ガツトツヨイヨツテ、物ヲ見定メ無キ。サテ、ホカト放身ノ処ハ、照破ヲモ、情塵ヲモ脱メ、亦歇ト云ハ、針頭針ヲ削リ、儀トアル。爰ヲ、自己ノアラ浪ト云タホトニコソ、宏智和尚(12オ)モ、渡来灑灑、嶮、危者折花當、ト云。

爰安山點頭、万機休罷、犢牛生兒、有無照破、大休大歇、樹倒藤枯、露柱點頭三千里外走、大花山立テ叫。希有、堂前露柱叫。秋々トモ云。最初足土(77ウ)無端依、物見定ヌカ。サテ、有無照破脱情塵。大休大歇云ワ、別。照破シタヲモ、ヲモ、脱情塵ヨ。マダモ歇セヨト云ワ、針頭削鉄義。爰自己休ハト云。ホト社、爰宏智渡来洩如軒云也。

爰ヲ、案山點頭、万機休罷、犢牛生兒、有無照破、大休大歇、樹倒藤枯、露柱點頭三千里外走、大花山立叫。希有、堂前露柱叫。愁々ト云ナリ。最初ノ足度ノ、ハシ無クツヨイニ依テ、物ヲ見不定ソ。サテ亦、有無照破脱情塵、大休大歇ト云ハ、別ナリ。ナセニナレバ、照破シタヲモ、情塵ヲ脱セヨ。マタ休シタヲモ歇ト云ハ、針頭ニ削鉄義。爰ヲ、自己ノ荒波ト云ナリ。

鬚灘洩与灘ト云テ、大難渡在リ。
爰ラニ、乗り過グル「ガ危イゾ。
折レ花當ツト云ハ、草木ヲ多ク
取りアツメテ、抛ゲ入レテ、其
レヲ卷キ籠ム内ニ、ソコヲチャ
ツト乗り過ルゾ。宏智家デハ、
入頭當着ガ、カイナケレバ、没
溺スルゾ。

サテ又、法眼宗自己ト云ハ、悉
皆別ノ「ゾ。法眼宗自己ヲ、一
向ニ破ラズ、ソ「ケヌト斗リミ
ルハ、悪イゾ。始メヨリソ「ケ
ヌト斗リミタ「デハ無イゾ。最
初ガツ「ト無レ端ニ依テ、皮肉
ニ疵^キズヲツケズ、破ラズ、本ト
ノ足土デ於タゾ。入頭ノツ「ト
ツヨイ呈、其俛^ムデ居タゾ。吋キ、
尽十方一顆明珠^ノ。向モ注(21
ウ)却スレバ、疵^キヲ生ズルゾ。
早ヤ挙揚ニ成ルゾ。

サテコソ、未挙揚ヨ。爰ハ、脱

○亦、法眼宗ノ自己ト云「ガア
ル。是ワ、別ナリ。一向破ラヌ
ト云モ悪シ、。最初ガ無レ端仍
テ、卒度モ皮肉^ニキズヲ付ケズ、
破ラズ、元ト足土デ於イタ。時
キ、尽十方一果^ノ明珠^ヲデ置イタ。
向モ、早ヤ句面ヲ云イ、注却ス
レバ、明珠ニキズガ生ズルゾ。
マコトニ、挙陽^{揚カ}ニナルゾ。ホト
ニ、ソ、カサズシテ置イタ。ト
キガ、未挙揚タ。

○爰ニ雜談アリ。青菜^ナヲクキニ

○爰ニ雜談アリ。青菜^ナヲクキニ

法眼宗自己云「有。是ハ名前^ノ。
一向破レヌト云モ悪也。最初ツ
トツヨイニ依^テ、皮肉^ニキスヲ付ス、
不レ破不レ損^ズ、元足土テ置^ク。
ソノマ「テ置タ吋、尽十方
一顆明珠云^ク。亦住却スレハ、珠^ニ
キスヲ生スルゾ。早挙揚ナルソ。
ホトコソ、未挙揚トワ云タレ。

法眼宗自己云「有。是ハ名前^ノ。
一向破レヌト云モ悪也。最初ツ
トツヨイニ依^テ、皮肉^ニキスヲ付ス、
不レ破不レ損^ズ、元足土テ置^ク。
ソノマ「テ置タ吋、尽十方
一顆明珠云^ク。亦住却スレハ、珠^ニ
キスヲ生スルゾ。早挙揚ナルソ。
ホトコソ、未挙揚トワ云タレ。

亦クキツケ雜談有。青^ナヲクキニ

亦、法眼宗自己ト云更アリ。是
ハ、各別ナリ。一向ニ破ラヌト
云モ、悪シ。最初ガツ、ト(1
オ)ツヨイニ依テ、皮肉ニキズ
ヲ不レ付、不レ破、不レ損シテ、本
ノ足シトデ置クヲ云ナリ。ソノ
俛^ムテ置タ時、尽十方一顆ノ明珠
也。別ニ注却スレバ、珠^ニ瑕^ヲヲ生
ズルゾ。挙揚ニナルゾ。呈ニ、
未挙揚ト云ニ、句面ワ多ケレ共、

亦、法眼宗自己ト云更アリ。是
ハ、各別ナリ。一向ニ破ラヌト
云モ、悪シ。最初ガツ、ト(1
オ)ツヨイニ依テ、皮肉ニキズ
ヲ不レ付、不レ破、不レ損シテ、本
ノ足シトデ置クヲ云ナリ。ソノ
俛^ムテ置タ時、尽十方一顆ノ明珠
也。別ニ注却スレバ、珠^ニ瑕^ヲヲ生
ズルゾ。挙揚ニナルゾ。呈ニ、
未挙揚ト云ニ、句面ワ多ケレ共、

爰ニクキツケノ物語リ有リ。青

体入派ニ、垂示ニ下ス雜談ガ在ルゾ。青ナヲクキニツケテミヨ。重石ガヨワケレバ、葉色ガチガウゾ。重石ガツ、トツヨケレバ、青汁ヲクツトヲシ出シテ、本青ヲナデミル、トミテ居ルゾ。ソツトモノ、ケヌ端的ガ、ツ、トツヨイニ依テ、本面ニ指シテ居タゾ。又、土器ノ雜談モ、爰「ヨ。思ウ呈打テミヨ。本土ニ成ルゾ。打ツ鎚ガヨワケレバ、カケニ成ツテ、コロビマワルゾ。ホウロクチニ、鎚チ一ツト云。呈ニコソ、急点頭來、張三李四デハアレ。入頭ガツ、トツヨケレバ、本ノ張三李四ノ肌ヘデ居タゾ。悪クスレバ、面皮ヲアラタメテミルゾ。呈ニ、法眼宗自己ガ、高イゾ。ナセ——バ、一顆明珠ガ、キズツカヌゾ。高く取レバ高く、低ク取レバヒキイゾ。在処ガ定テ、定マラヌニ依テ、高イゾ。

付テミヨ。重シガヨワケレバ枯レ葉ナル、重石ガツ、トツヨケレバ、青汁ヲクツトモミ出シテ、青ナノ色ロデ、ミルくトシテ居ル。

○亦、カワラケ句面アリ。思ウホト打破シテ見ヨ。元トノ土クレニナルゾ。是モ、打ツ鎚ガヨワケレバ、破片ニナツテ、郎下ノアタリヲコロビ囀ルゾ。ホトニ、急点ジ來ルガ、大支ダ。ホトニ、急点ジ來ルガ、ホウロクチニ鎚一ツ元トノ土クレテ居タ。ホトニ、法眼宗ノ自己ガ高キ。ナセ——バ、卒度モキズ付カヌ。一果ノ明珠ガ、高く取ル則バ高く、低ク取ル則バ低、在所ガ定ラヌニ仍テ高イゾ。

付出テ見ヨ。ヲシガヨワケレハ、カレ葉ナリ、クサルゾ。ヲシツヨクスルハ、青シルヲクツトヲシ出シテクサラス、本青葉ミルくトノ(78才)居。

亦土器句面。足下打破テミヨ。元ノクロ土ナルゾ。打破羊カヨハケレハ、カケナツテ、庫下アタリヲコロヒ囀ルゾ。急点來シム。長三李四タゾ。是ヲヨフ走。タタイノスジメ。ホト、法眼家ノ自己ガ、高く低ク。ナセ——ハ、卒度モキスツカヌ。一顆明珠高く、下レハ、亦低イ。ナセ——ハ、求処定ラヌニ依テ高くナルゾ。

ナヲクキニツケテ見ヨ。ヲモシノ石ガヨワケレバ、枯レ葉成リ、クサレ葉ニ成ルゾ。ヲモシノツヨイ呈、青シルヲクツトモミ出シテ、クサリモセス、本ノアラナノ色テ、ミルくトシテイル。

亦、土器句面アリ。思呈打破テ見ヨ。元ノ黒土ニナルゾ。打羨ガヨワケレバ、カゲニ成テ、廊下ノアタリニコロビマワルゾ。呈、頭ヲ轉シ來レバ、元是張三李四ナリ。大タイノ筋目ナリ。呈ニ、法眼宗ノ自己ガ、高キナリ。ナセニナレバ、卒度モ瑕着又明珠ガ高く取レバ、高クナリ。低ク取レバ、ヒキクルナリ。在處ガ定ラヌニ依テ、高キ。

夢相国師歌云、法師ハアグレバ
上ノ上ミサグレバサガル下モノ
下モ迄デ。此ノ心ヲ以テ、培芝
和尚ノ、水中塩味、色裡膠青、
ト云ニ、尽十方一顆明珠ト被成
（22オ）人。此一顆明珠ガ、水中
デハ塩味、色裡デハ膠青タゾ。
白ニ在テハ白縁、黒ニ在テハ黒
縁タゾ。又、白ラ露己ノガ姿タ
ハ其俣ニ紅葉ニ於バ紅ノ玉、ト
云モ、一顆ノ明珠一ヨ。

法眼宗透句ニ、野菊含金、山川
玉ニ口ニスタグ。心ハ、野菊ガ
金カ、山川カ玉カ、ト云句面モ
在ルゾ。又、野菊ガ金含ミ、山
川玉ニ口チス、イダデハ無イ、
ト云句面モ在ル。ドレモ一理
ツ、ダ。百姓日々用不レ知。心
ハ、濃老濃夫ガ、終日打ツ耕シ
ツシタガ、全ク己レガ作トハ知
ラヌゾ。サテ、用テ知ラヌ一ヨ。

爰ル故、○法リノ師ハ上レバ上
ル上ミノ上ミ迄下レバ下ル下ノ
下モ迄。此歌ガ本レ手ナリ。故
ニ、正悦和尚代、水中塩味、色裡
膠青、ト被成タト云ハ、此ノ明
珠ガ、水中デハ塩味、色裡デハ
膠青トナツタゾ。

然ル間、透リノ句ニ云、○野
菊含金、山川嘸玉。○尽十方
只是十方。○百姓日々用不レ知。
○吾有ニ一言天上人間、若人
不レ會緑水青山。○携ニ鋤頭々々
不レ知レ重。心ワ、如レ此破ラズ、
付ク仍、野菊カ、金カ、山川カ、
玉カ、挙揚ハ無イ。カルガ故、
惠超問佛ノ頌ニ、江國春風——
花裏。私云、江國ハ、江南入

カルカ故、夢想国師ノ哥ニ、法
ノ師ハ上レハアカルウエノウエ
サクレハサクル下ノ下迄。如レ
此ミヘシ。故正悦和尚云、水中
塩味、色裡膠青ト云モ、是此ノ
明珠、水中テワ、塩味ナリ、色
裡テハ膠青ト也。

然間、透リノ句多シ。野菊含
金、山川珠嘸。亦、尽十方是尽
十方。亦、百姓（78ウ）日々用
不レ知。亦、我有一言、天上人
言、若人不會、緑水青山。亦農
夫携ニ鋤犁、不レ知ニ鋤頭重。大
如レ此不破蹤ツカヌニ依、野菊
含レ金、——嘸ス。卒度モ挙揚
ワ無イソ。故惠超問佛ノ頌、江国
春風吹不起、鳴鷓鴣一深在花

然ル間、無相国師ノ歌云、法師
ワ上レバ上ル上ノ（ノウ）上下
レバ下ル下ノ下迄。此ノ歌ガ、
テ本ナルベシ。

然ル間、透リノ句多シ。○野
菊金含、山川嘸玉。○尽
十方只是尽十方。○百姓日々用
不レ知レ名。○我有ニ一言、天上人
間、若人不レ會、緑水青山。
○携ニ鋤犁々々不レ知レ重。大
略如レ此。瑕ス付ヌニ依テ、野菊
カ金カ、山川カ明珠デ、挙揚ワ
無イゾ。惠超問佛ノ頌ノ時モ、
○江国春風吹不レ立、鷓鴣啼深有

アレニ、此ノ修行ハナイガ、明眼、
衲僧ガ、コナタヨリミソヘタリ
ヨ。吾有レ一言、天上人間若
人不レ會、緑水青山ヨ。サテ、會
得スレバ、ドロ水成リ、枯レ色
ロガツクゾ。不會時キガ、未拳
揚タゾ。會スレバ、拳揚ニ成ル
ゾ。携レ鋤鋼々々不レ知レ重。心
ハ、日々用知ラヌト云心。惠
超問仏、雪豆頌ガ、法眼家ノ総
体。江國春——水。心ハ、江
國ハ、江南暖國。春風ハ、陽
氣。暖風ト云ウ為メヨ。ト云
ハ、南方ハ、仏法道地。仏法
サタハ、拳揚ヨ。吹不レ起ト云
ハ、仏風祖風ガ、(22ウ)吹キ起
又時キガ、未拳揚也。爰デ、深
花裡鷓鴣^(鷓鴣)ト云ハ、只野老山老ガ、
鋤鏢ヲ取テ、重イト云「ヲ不レ
知ガ、深花裡鷓鴣ヨ。鷓鴣ト云
ハ、声ヘ在テ、形チ無イ鳥。無
又、一説ニ、江南ハ何ツモ春ル
ナニ依テ、吹キ立ヌゾ。深花裡

リ、暖國ナリ。春風モ、暖風ナ
リ、南方ナリ、佛法ナリ。然ラ
バ、佛法ガ拳(12ウ)揚ナリ。
在レドモ、未揚^揚拳ナル間ダ、吹
キ立ヌゾ。鷓鴣——裡、ト云
ハ、深花裡鷓鴣ト云ハ、只ダヤ
タ・平タガ・鋤頭ヲ取テ、鋤頭
ノ重イト云「ヲ不レ知、土
民百姓ガ、吾ガ賤シイト云「モ
知ラヌガ、深花裡ノ鷓鴣ナリ。
鳴ト云ハ、鋤頭ヲ取テ、ハツタ
ト拳テ、歌ウタガ、深花裏デノ
鳴キナリ。サテ、卒度モキズ付
カズ、破ラヌニ依テ、尽十方一
果ノ明珠。ホドニ、法眼宗ハ、
凡向。○白ラ露ノ己ガ——紅イノ玉
ト云モ向。亦、最初自己ト云
ハ、前ノ如^(音カ)主却、山ガ崩レ、薪
モ尽キ、火モ滅シテ、五尺ノ境
界ヲ打クベテ、焼キステ、無
心ノ境界ト打チナツタゾ。

裡。注云、江國、江南。春
風、氣陽。ホト、春風、暖風
。南方仏法事云ハ、仏法
拳陽。アレ氏、未拳揚ナル間、
吹起ヌゾ。サテ、深花裡鷓鴣云
ハ、只弥太良、平太良ガ、鋤犁取
重イト云「ヲ不レ知、タミ
百姓ガ、己レト我身拙ナイト云
「ヲ不レ知云也。卒度モキズ付
ヌ、破レヌニ依、一顆。法眼
宗ト云ワ、凡如^レ是可見。人々
アツカイ可多也。サテ、(79オ)
亦、最初自己云ワ、前住劫山ク
ツシ、薪尽火尽シテ、五尺境界
打クヘテ、ヤキスツル無人境界
。

花裡。是モ、江國ワ、江南也。
春風ワ、暖風ナリ。南方ノ仏法
ナリ。仏法ワ、皆ナ拳揚ナリ。
未拳揚ト云ワ、少モ吹キ立ヌナ
リ。深花裡ノ鷓鴣ニタトユル。
只野太、平太ガ、鋤犁ヲ取重イ
ト云「ヲ不レ知、土民百姓ガ、我
ガ賤イト云「ヲ知ラヌゾ。深
花裡鷓鴣ト云ナリ。卒度モキズ
付ヌニ依テ、一顆ノ明珠ト一ツ
ナリ。凡法眼宗自己ト云ワ、如
此。人々ノ拵イ可多。サテ
亦、最初ノ自己ト云ワ、己前(2
オ)如^レ注却。山モクツレ、薪モ
尽、火モ滅シテ、五尺ノ境界ヲ
打クベテ焼却シテコゾ、無人ノ
境界ニナルナリ。

ノ鷓胡ハ、唯心法ノ一ヨ。三四句モ化サウズ。魚ハ化シ、痴人ハ夜塘水叫ンダ。時キガ、唯心法ヨ。畢竟キズ、カ又肌ヘノ時キガ、一顆ノ明珠ヨ。

参話ノ吋ハ、爰ノツギニ、自己真照ノ渊源ト云一ガ在ルゾ。其次ギニ、自己ノ点処ト云一ガ在ル也。又、自己真照ノ渊源ヲ、無漏自浄法身トモ云。又、石霜七去吋、冷湫々地ノ在処ヨ。去ノ字ヲ添レバ、早ヤ智不到ニナルゾ。爰デハ、ソエヌ一。爰ヲ、自己見冤家如点ズレバ、知不到ニウツル。冤ハ、アタト云テ、自己ヲアタトミル底ハ、トツクニ飛イタゾ。

△智不到。智ト云ハ、佛祖唱ヘ丁度打チ、吠ト喝スル、悟処悟辺一ヨ。其仏祖ノ智問タヲバ、背觸ニ渡又當頭デ、クツト掃除シ

爰ガ、石霜和尚七去内チデハ、冷湫々地。無人ナル間ダ、湫浪ミガ蒼々ト立タ迄デヨ。去ト云字ヲ添エレバ、知不到ニナル間ダ、此ノ注却ニハ、添エヌ。爰ヲ、自己真照渊源ト云タ。自己ハ、凡ソ向ナリ。

知不到。云、智ト云ハ、佛知。唱エ、黄頭碧岩、徳山・林齊智ヲ云。其ノ佛知・祖智ノ問ダヲ、最初デ尽ク除却シタ仍テ、

爰カ、石相七去ノ内テハ、冷湫々地。無人ナル間、サ、波ソウノト有タ迄テタゾ。去テ去ト云ハ、知不到ナル間、去字注却添ヌ。爰ヲ自己渊源云也。無漏自浄法身云也。自己云ハ、大方此分筋目。

知不到ト云、仏ソ師、尺迦・達磨・徳山・臨齊智云。仏智祖知ノ問ヲハ、最初掃除、只愚驢ノハタヘニ成。故爰ヲ清波不

爰カ、石霜七去ノ内デモ、冷湫々ノ地ナリ。無人ナル間、只波ソウノト立タ迄タゾ。去ルト云エバ、知不到ニナル間、去ト云字ヲバ、此注却ニワ、ソエヌ也。爰ヲ、自己ノ渊源ト云ナリ。自己ノ句面、大方此分ノ筋目也。

△知不到ワ、先ツ智ト云ワ、佛祖ノ唱エ、釈迦・達磨・徳山・臨濟ノ智ヲ云ナリ。仏知祖知ノ問ヲバ、最初デ尽ク掃除シテノ

テ、只愚^ハ肺^ニ肝^ニ（23才）成
ルゾ。故、爰^ヲ清波不^レ犯^ト云
へ。浪^ト云ハ、唱^トヨ。犯^カサ
又^ト時^キ、風波ハ立^ヌゾ。故ニ、
爰^ヲ一色^ト云^タゾ。水、天子^イ
シ、天、水子^イシ、水天^一般^ニ
成^ツタゾ。風モ冷^ニ月^サヒシイゾ。
雪モ白^ク芦花^モ白、一点^マジリ
物無^ク、汚染^セズ、ソツトモキ
サ々^ヌゾ。然ル間^ダ、千^仏モ万
祖^モ、月^白ハ、サテ何^{ント}モワ
キマエ又^道利^タゾ。風冷^カナハ、
何^トシタ道^利タゾ。サテ何^ン
く^デハテタゾ。會^処承^當ハ、
智^ヨ。サテ、何^ンく^デハタシ
タ^ト時^キ、落^着ハ無^イゾ。サテ、
ド^コニ智^ガ到^タゾ。夾^山点^頭モ、
爰^ニ洩^底シタ^トへ。此^ノ肌^ヲ景
ニ^比シテミ^バ、大^唐デハ、西^湖
景、洞^庭七^閩夜^涼、太^湖三^万夜
景^ニタ^トヘ^タゾ。日^本デハ、松
浦[・]廣^澤、田^ゴト^ノ月、ミ^ヲノ

只^ダ愚^ハ肺^ニ肝^ニ打^チナルゾ。
ホ^トニ、爰^ヲ清波不^レ犯^ト云
タ。清波^ト云ハ、佛^祖ノ唱^エナ
リ。犯^サ又^ト時^キ、風波^ハ立^ヌ。
風波^ト云ハ、爰^デハ、知^ノト
ダ。故、一色^ノ地^ト云^へ。天、水
エイ^ジ、水、天^{アイ}ジテ、月^モ
冷^ニ、雪^モ白^ク、芦^葉モ白^ラ
タ^エ、一^点ノ雲^間ヲ絶^シタ。時
キ、智^ノ沙^休ハ走^{マイ}。愁^意ト
云^モ、此^境界^{ナル}ヲ云^タゾ。爰
ヲ、秋^{キノ}天^ニタ^トウ^ト云^ハ、
尽^シく^気ノウ^ルヲイ^ヲ云^ヲウ
ガ^為メ^ダゾ。然^ル間^ダ、千^仏万
祖^ノ白^{ライ}ハ、何^トシタ道^リタ
ゾ。風^ノ冷^ナハ、ナ^{ント}シタ道^道
リ^タゾ。此^ノ時^時モ、落^チ付^キ
ハ走^ヌ。サテ、ド^コニ知^ガア^ツ
タ^ゾ。夾^山点^頭シタ^モ、此^ノ肺
肝^ニス^リ付^ケタ。ホ^トニ、爰^ヲ、
大^國デハ、西^湖ノ景^ト（12ウ）
モ云^イ、本^朝デハ、松^嶋・小^嶋・
平^泉・難^波江・吹^キ上^ゲ、明^シ

犯^ト云^へ。清波^ハ仏^法唱^へへ。犯^サ
又^ト時^キ、波^ワ立^ヌゾ。故、一色^ト云^ハ、
天^水子^イシ、水^天子^イシテ、月
モ冷^ニ雪^モ白^ク、芦^葦モ白^ラタ^エ一^点
マ
（79ウ）ジ^リモ無[、]絶^シタ^ト時[、]知[、]
沙^汰走^{マイ}。然^間、千^仏
万^祖、月^白ワ何^{ント}ノ落^裡タ
ゾ。風^吹イ^タワ、何^トシタ道^理
タ^ソ、く[、]ト落^着セ^ヌゾ。落^著
會^得タ^ソ。サテ、ド^コ知^カ到^タ
ソ。故、夾^山点^頭三^下シタ^モ、肝
膽^ニス^リ付^タゾ。ホ^トニ、爰^ノ
ト^ヲハ、大^唐デハ、西^湖景^ト云
イ、洞^庭七^閩景^共云^へ。亦^本朝
テハ、松^嶋・小^嶋・平^泉・難^波・
タ^カサ^コ・吹^キ上[・]明^石浦[・]ヒ
ロ^サワ・田^無月、ミ^ヲノ松^原、
小^波捨^山ナ^ト、云^テ、平^生句^面
云^イ、一^方ナ^ラ又^景カ^{アル}ゾ。

ケ^テ、只^愚ノ肺^ニ肝^ニナルナ^リ。
故^ニ、清波不^レ犯^ト云^ナリ。清波
ワ、佛^祖ノ唱^エナ^リ。犯^サ又^ト時[、]
風波^ワ立^ヌゾ。故^ニ、一色^ト云^ナ
ナ^リ。水^天粘[、]天^水粘^{シテ、}或
ハ、月^冷、雪^モ白^ク、芦^葦モ白^シ
ラ^タエ^ニシ^{テ、}一^点ク^マヲ^絶シ
タ^{時、}知^ノ沙^汰ワ^{ナイ}ゾ。然^ル
間[、]千^仏万^祖モ、月^ノ冷^ナワ、
何^{ント}シタ^{ゾ、}雪^ノ白^イワ、何
ン^トシタ^{ゾ、}ト云^{テ、}（2ウ）落
シ^付ケ^ヌゾ。サテ、ド^コニ知^ガ
到^テ走^{ゾ。故}ニ、夾^山ノ点^頭三
下^{シタ}モ、此^肺肝^ニス^リ付^タゾ。
呈^ニ、爰^ヲ、大^唐デハ、西^湖ノ
景^トモ云^{イ、}洞^庭七^閩景^共云^ナ
ナ^リ。亦^日本^デワ、松^嶋・小^嶋・
平^泉・難^波・吹^上・明^石浦[・]シ
ラ^く廣^澤・田^毎ノ月、三^保ノ
杏^原、小^婆捨^テノ山^ナト^{々、}平
生^説破^句面^ニ云^{ワ、}是^レナ^リ。

松原、田子ノ浦ト、平生説破句
面ニ云ハ、爰ノ「ヨ。ト云テ、
浮世景色ト心得テハ、ムダ「ヨ。
爰ヲ、曹洞芦花境ト云タゾ。

ノ浦、白ラく廣澤、三深、杉
バラ、小婆捨山、何ド、云テ、
説破句面ニ云ク。亦タ、芦花ト
云モ、爰ヲノ「ダ。心得ガ、大
夏ダ。

透句云、蘋末風休夜正半。水天
虚碧共秋光。又、雪月芦花同
秋空。又、銀河清無レ波、半
夜月横レ秋。樓閣千家月、江湖
万里秋。(23ウ)又、清河波静、
夜浮レ靈槎。此句共ハ、皆ナ智
不到ニ用ルゾ。爰ヲ、我が宗中
カ墨トモ、曹洞面蔵トモ云タ
ゾ。ナセ——バ、向上・向下、
理叟・機関、偏正、有無、玄妙
共ニ、皆ナ爰ニ皈シタゾ。サテ
コソ、爰ヲ五位ノ吋ハ、兼中至
ト云タゾ。○圖是ク。爰ニ余タ
「ハ無イ。將軍家モ取ルゾ。ナ
セ——バ、此在処デ、君ヲモ兼
子、臣ヲモアハレントゾ。

○師云、知不到ヲ云ワシ。代、
不レ知々々。師云、夫レナラバ、
透リノ句共ヲ云エ。○代、蘋末
風休夜正半、水天唐碧共秋光。
○雪月芦花同秋空。○樓閣千
家月、江湖万里秋。○芦花無レ異
色。○白鷺下汀州。○月船不レ
犯東西岸。私云、此透リノ句ハ、
當頭ノ智不到ク。爰ヲ、宗門ノ中
黒トモ云イ、曹洞ノ面蔵トモ云
タゾ。ホトニ、五位君臣・偏正
回互・向上向下・理叟・機関・
玄妙・黒白共ニヲツ取り籠ンデ
於イタゾ。亦タ、五位取ル則ン
バ、爰ガ兼中至ク。○圖是ク。
ホトニ、白色デハ走ヌカ。爰ヲ、
臣一片ノ地トモ云タゾ。ホトニ、

故透句多シ、蘋末風休ンテ
夜正半。芦花無異色。雪月芦花
同秋空。亦銀河清無レ吋、半夜
月横レ秋。樓閣千(80オ)家月、
江湖万里ノ秋。亦、月船不レ犯
東西岸。亦、銀河淨。夜浮
灵槎。皆此句、當頭知不到ク。
爰ヲ独在共云ク。亦宗門中墨共
云ク。曹洞眠蔵云ク。五位ト
ル則、爰兼中至ク。サテ亦量
吋、○是ク。然間、白一色走ヌ
カ。ナセニメン蔵云タゾ。ナレ
ハ、向上・向下、理事・機関、
明暗、黒白、有無、玄妙、共ヲ
ツトリ籠ライタゾ。サテコソ、
將軍家トルク。君ヲモカ子民ヲ
モカ子テ候。

然ル間、透リノ句多シ。へ蘋末
風休夜正半。へ水天虚碧共秋光。
へ雪月芦花同秋空。へ銀
河清無レ波、半夜月横レ秋。へ
樓閣千家月、江湖万里秋。へ芦
花無レ異色、下白鳥汀湍。へ月
船不レ犯東西岸。へ雪月混處
秋一色。へ清河波清夜浮靈槎。
皆ナ此ノ句ワ、當頭ノ知不到ナ
リ。爰ヲ、宗門ノ中墨共云イ、
亦ワ曹洞ノ免蔵トモ云ナリ。ナ
セニナレバ、爰ヲ五位ニ取ル則
ンバ、兼中至ナリ。圖ワ、○是
ナリ。然ル間、白一色デワ走ヌ
カ。ナセニ爰ヲ免蔵ト(3オ)
云タゾ。ナレバ、向上・向下、
理叟・機関、明暗、黒白、有無、

<p>三裡^ノ時^キハ、爰^ヲ縣裡^底ト云^タゾ。爰^ニ、不^レ点^ト云^フ在^リ。不^レ運^不点^シテ、一^色上^ヘデ、屋裡^ヘ通^ジタゾ。</p>	<p>爰^ヲ、將^軍ノ家^ニト^ル。ナセ ——バ、君^ミヲモ兼^子、民^ミヲモ兼^子タゾ。</p> <p>故^ニ、独^在ノ不^レ点^ト云^ク。是^ヲ縣裡^底ト云^タゾ。○亦[、]不^レ点^ノ点^ト云^フアリ。一^色上^エデ不^レ点^ト云^フアリ。一^色上^エデ不^レ点^ト云^フアリ。○爰^ニ、古^歌屋裡^エ点^ズル。○爰^ニ、古^歌ヲ引^ク。君^ミ住^バ爰^モ雲^井ノヨザ^ノ浦^ヲ天^ノハシ^タテ都^コナリセバ。大^方ノ筋^目ハ、是^ク。</p>	<p>故^ニ、懸^裡底^ト云^ク。サ^テマ^タ、古^哥、破^閑云[、]キ^ミす^まは^コレモ雲^井ノヨサ^ノウ^ラ天^ハシ^タテ京^コナ^リセハ。大^方筋^目是^ク。</p>	<p>玄^妙、共^ニヲツ取^リ籠^デ置^タゾ。擋^テコ^ソ、將^軍家^ニ取^ナリ。君^ヲモカ^子、民^ヲモ兼^テ走^ゾ。</p> <p>故^ニ、懸^裡底^ノ人^ト云^ナリ。擋^テ亦[、]爰^ニ不^レ点^ノ点^ト云^フアリ。不^レ点^一色^ノ上^テ、屋裡^エ轉^ズルナ^リ。へ古^歌云[、]君^ミ住^メバ爰^モ雲^井ノヨザ^ノ浦^ヲア^マノハシ^トテ京^コナ^リセバ。大^タ、イ^ノ筋^目ワ、是^ナリ。</p>
<p>故^ニ、不^レ点^ト透^句ハ、清^波不^レ犯^意自^異。十^分清^白清^已忘[。]清^白十^分田^地、即^是無^処玄^妙頂[。]清^白十^分処[、]以^テ吟^レ不^功時[。]又[、]功^点処^ト云^フ在^ルゾ。功^ト云^ハ、智^不到^ヲ云^タゾ。ナセ ——バ、自^己ヨ^リ尽^シテ至^ル間^ダ、功^作ヲ經^タゾ。故^ニ功^ト云^タゾ。不^レ点^ハ、ハ^コバズ^シテ点^タゾ。△歌^云、君^住バ爰^モ雲^井月^ナレド猶^ヲコ^イシ^キハ都^ナリケ^リ。此^ノ心^ヲ以^テ、点^処ヲ心</p>	<p>ホド^ニ、此^ノ透^リノ句^多シ。○清^波不^レ犯^意自^異。○清^白十^分処[、]以^テ不^レ切^時吟^ス。○清^白十^分田^地、即^是無^処玄^妙頂[。]亦[、]功^点処^ト云^フアリ。先^ツ功^ト云^ハ、智^不到^ヲ云^タ。何^ゼ——バ、自^己ヨ^リ尽^シテ至^ル間^ナホト^ニ、功^作ヲ經^ル。故^ニ功^ト云^ク。不^レ点^ワ、ハ^コバズ^シテ、一^色上^デ点^ズル云^ク。是^ハ、歩^ミフマズ^シテ、点^ズル云^ク。君^ミ住^メバ爰^モ雲^井ノ天</p>	<p>故^ニ、透^句多^シ。清^(80ウ)波^不レ犯^自異[。]亦[、]十^分清^白清^已忘[。]清^白十^分田^地、即^是無^処玄^妙頂[。]亦[、]清^白十^分処[、]以^テ冷^不功^時。亦[、]功^点処^ト云^フ有[。]前^功云[、]知^不到^云。ナセナレハ、自^己ヨ^リ尽^シテ至^ル間[、]功^作ヲ經^ル。故^ニ功^ト云^ク。不^レ運^一色^上テ点^スル。是^ハ、運^テ点^スル。故^ニ透^閑ノ哥^引云[、]君^すま^は爰^モ雲^井ノ月^ナレド尚^コイ^シキハ京^コナ^リケ^リ。是^ハ大^方筋^目。此^ニ</p>	<p>故^ニ、透^リノ句^多シ。へ清^波不^レ犯^意自^異。へ十^分清^白清^已忘[。]へ清^白十^分田^地、即^是無^処玄^妙頂[。]へ清^白十^分処[、]以^テ吟^レ不^功時[。]亦[、]功^点処^ト云^フアリ。先^ツ功^ト云^ワ、知^不到^ヲ云^ナリ。ナセニナレバ、自^己ヨ^リ尽^シテ至^ル間[、]功^作ヲ經^テ到^ル故^ニ、功^処ト云^ナリ。不^レ点^ト云^ワ、ハ^コバズ^シテ、一^色上^デ点^ズル云^也。是^レワ、尽^シテ点^ズルナ^リ。へ古^歌云[、]</p>

得ルゾ。爰ヲ破関眼コト云也。
又、△歌云、君ミ住バ爰モ雲井、
四座ウラアマノハシタテ都ナリ
セバ。(24オ)ト云心ハ、不_レ不
点通ジタゾ。

ナレドモ猶ヲ戀シキハ都コナリ
ケリ。亦月ナレドモトモアリ。
○是ハ、爰テ彼コエ点シタゾ。
是ヲ以テ、白井叢林寺デハ、透
関・(13ウ)破関ノ誦訛ニ秘訣ノ
参ニアツクル。

首哥以、透関・破関誦訛ト秘決
ノ参扱。

君住バ爰モ雲井ノ月ナレド猶戀
シキワ都ナリケリ。是ガ大筋目
ノナリ。此二首歌ヲ以テ、(3
ウ)一刃派デワ、透関与破関
誦訛・秘決ノ参ト拵ナリ。

功ノ点処透句ハ、鶴出銀籠冲
霄漢。心ハ、鶴トハ、中ノ主ガ
功ヲ点ジテ、屋裡至タ_レヨ。退
步承當特持新。心ハ、功ヲ退步
シタク。特更新ト云ハ、那时極
位ヲサシタク。皓々雪月清無
塵、一色功中更放開_レ歩点。是
ハ、自己渊源功ト、智不到本有
功ト合シタル処ヲ、毫釐差ト云
タゾ。

○此透リノ句云、○鶴出銀籠
冲霄漢。○冲声。是ハ、智
不到ノ主。亦、退步承當特
地新。○皎然雪月清無塵。○
一色功中更放開。是ヲ、自己淵
源ノ功ト、智不到本有ノ相合タ
ルヲ、毫釐ノ差ト云。亦、那时
毫釐差ト云モアリ。

此透句、鶴出銀籠冲
霄漢。ツルト云物、功主ヲ云
。退步承當特持新。亦、皎然
雪月清、無埃一色功中(81
オ)更放開。大方是カ、サテ、
自己渊源功、知不到本有功合ル
処テ、向下毫釐差ト云。

此透ノ句、多。鶴出銀籠冲
霄漢。鶴ト云ウ功処ノ主ヲ云
ナリ。へ退步承當特持新。へ
皓然雪月清無塵。へ一色功
中更放開。大カタワ、是レラガ、
自己ノ渊源ノ功ト、知不到ノ本
有ノ功ト合タ処ヲ、向下ノ毫釐
ノ差ト云ナリ。

又、智不到ノ渊源ト云_レガアル
ゾ。智不到一色ニシテ一色ト知
ラズ、月照シテ照シタト知ラヌ
ゾ。トキガ、深固幽穩、無人能
到タゾ。爰ヲ、智不到渊源ト云

○亦智不到渊源ト云_レアリ。智
不到一色ノ月照シテ照シタト知
ラヌ時キ、智不到ニモ死在セヌ
時キ、爰ガ、深固幽遠無人能到
ト云。是則チ智不到ノ渊源

亦知不到云_レアリ。知不到
一色一色不_レ知、月照、不_レ知
ゾ。吋不到モ死在セヌゾ。爰深
固幽遠ノ地ト云タゾ。然間、正
悦和尚代云、白雲深処金竜躍。

亦知不到渊源ト云ワ、一色ニ
一色ト不_レ知、月然_レ然シタト
知ラヌ処ナリ。爰ヲ、へ深固幽
遠、無人能到ト云ナリ。是即知
不到ノ渊源ナリ。呈ニ、爰ヲ幽

タゾ。ソレニ依テ、幽穩地ト云
タゾ。△培芝和尚代ニ、白雲深
処金龍跳ルトナサル、也。白雲
——龍ト云ハ、那边主ガ在ルゾ。
此ノ代ヲ不点ノ点ト云タゾ。三
位トハ云ヘ氏、主ハ一人人。

く。夫仍テ、正悦和尚代、白雲
深処跳金竜ト被成夕。金竜
ハ、那時ノ主。サテ、三位ト
云タデコソ在レ、主ハ別ニハ走
ヌ、只一人ナリ。白雲ハ、功。
白一色ナル間、其コニ那岐ノ主
ガ走ゾ。是則チ不点ノ点ト心得
ベシ。

金竜ト云ハ、那边主。三位云
タハ、独在庄別者走ヌゾ。白雲
功処ナル間、其那边主滿タソ。
不点可意得。大方筋目ワ、此分
人々ノアツカイ可レ多也。

遠ノ地ト云ナリ。然ル間、正悦
和尚ノ代ニ、ハ白雲深キ処
ニ跳金竜。金竜ワ、那边ノ主
ナリ。三位ト云タトテ、別テハ
無イゾ。白雲ワ、功処ナリ。一
色ナル間、其ニ那边ノ主ソナワ
ツタゾ。不点ノ点ト、可心得。
大方ハ、此ノ分ナリ。拵
イ可レ多。

△那時那边。心ハ、那边ト云ハ、
自ヲ捨テ、智不到ヲ放下シ、無
人トサタセズ、月モ無ク極暗シ
テ更ニ無分曉ナルヲ云タゾ。千
佛万祖モ、智不到ヘサヘ依ツテ
モ付ヌニ、况ヤ爰ヘハ千里万里
ゾ。爰ヲ末夜半正當ト云タゾ。
子ノ(24ウ)吋キ、當正位トモ
云タゾ。正位ニ取ル則ンバ、君
位ヲモスメラズ、冠リモ傾ムケ
ズ、錫ヲ持メ、玉簾中黙々トシ
テ、天下ヲ守ルヲ云タゾ。千佛
万祖ハ、丹池砂石迄デモ至ラヌ

那時ト云ハ、自己ヲモ捨テ、智
不到ヲモ放下シ、無人ト云サタ
モセズ、月モ無ク極暗ニシテ更
無分曉ナルヲ云。千仏万祖モ
智不到エ依テモ付カヌ、况ヤ何
カ爰エハ千里万里ヨ。ホトニ、
爰ヲ末夜半正當ト云。子ノ
時キ正當ヲ、正位ト云。五位
ニ取ル則ンバ、君ミノ住ヲモ清
ラズ冠ムリヲモ傾ケズ、錫ヲ持
テ玉簾ノ内チニ黙々トノ居テ、
天下ヲ守リヲコナイ玉ウ。千
仏万祖モ、白砂迄デサエ、ヨリ

ハ那边云、那边トハ、自己ヲモ
テ、知不到ヲ放下シ、無人サモ
モセス。更月無極暗無分曉ナ
ルヲ云。千仏万祖、知不到サ
ヘ、ヨツテモ付ヌニ、况ヤ万里
ホトニ、爰末夜半正當ト(81オ)
云。子吋當。正位取吋、君位
モスメラレス、冠ヲモ不傾、尺
ヲモナヲサス、玉簾深処、黙々
トノ居テ、天下守云。千仏万祖
ヨリ付ヌゾ。爰簾内、全体未露
ト云イ、君臣合道処ト云イ候ゾ。
氏ナセナレハ、主ハ別々テハ無。

△那邊ト云ワ、自己ヲモ捨テ、
知不到ヲモ放下シテ、無ト云沙
休ヲモセズ。月(4オ)無ク極
暗ニシテ更無分曉ナルヲ云ナ
リ。千仏万祖モ知不到エサエ、
依テモ付ヌニ、况ヤ爰エワ千里
万里ナリ。爰ヲ、暮夜半正當共、
子ノ時キ、當正位共云ナリ。王
位ニ取ル則ンバ、君位モスメラ
ス、冠ヲモ不倒、尺持玉簾ノ内
ニ、黙々トシテ居テ、天下ヲ守
ルヲ云ナリ。千仏万祖ワ、白ラ
スマテサエ、ヨリ付ヌニ、簾内

ゾ。况ヤ簾内ヲバ知ラヌ。付
キ、全体ハ露レヌゾ。爰ヲ、君
臣合道ト云也。主ハ別ニハ無レ
氏、自己・智不到ト尽シタ主ト、
正得ヨリ尽サヌ本有天然ノ君ミ
ト肌ヲ合セタゾ。爰ヲ、刀斧切
不レ開ト云イ、一絲不レ隔ト云
イ、風吹不レ入、水洒不レ着ト云
タゾ。

付カヌ。况ヤ何カ簾内ヲバ知郎
ズ。ホド、金体ハアラワレ走マ
イホドニ、爰ヲ君臣合道トモ云
イ走ヨ。ナゼ——バ、主ハ別デ
ハナケレドモ、自己知不到ト尽
シテ到タ主ト、亦タ生得ヨリ天
然ル故、刀斧斫不レ開、ト云タ
ゾ。

アレ氏、自己知不到尽ノ主ト、
亦生得不尽本有主ハタヘヲ、ジ
ツト合セタ。故、爰ヲ刀斧斫共
不レ開氏云イ、間不レ容レ髪共
云イ、一絲不レ隔氏云イ、風吹共
不レ入水洒不レ著氏云イ候ゾ。

ヲバ知ラヌゾ。君ノ全体ガアラ
ワレヌニ依テ、爰ヲ君臣合道ト
モ云ナリ。ナセニナレバ、主ワ
別デワ無レ共、自己・知不到ト
尽シタ主ト、亦生得尽サヌ本有
天然ノ君ト、肌エヲ実ト合タゾ。
故ニ、刀斧斫不レ開ト云ナリ。
一毫モ不レ隔トモ云ナリ。ヘ
風吹不レ入、水洒不レ着トモ云ナ
リ。

透句ニ云、△牛頭按レ尾上、豈
大陽氣借。空王殿上絶レ知音。長
季不出戸。樞密不レ得旨。是ヲ
當頭那返ト云タゾ。

○此ノ透リノ句。○一絲毫も不
隔。○風吹不レ入、水洒不レ着。
牛頭按レ尾上、豈レ借レ大陽輝。
是ハ、日光輝。○空王士絶
知音。○長年(14オ)不レ出レ戸。
是ハ、皆ナ當頭ノ那時。

故透句多。牛頭尾上安、豈大陽
幾借。空王殿上絶レ知音。亦、
長季不出戸。亦、樞密不レ得旨。
是當頭那返。

去ル間、透ノ句多シ。ヘ牛頭按
尾上、豈レ借レ大陽輝。ヘ空王
殿上絶レ知音。ヘ長年不出戸。
ヘ樞密不レ得旨。是レワ、皆ナ
當頭ノ那返。

サテ又、那返ト云イ、那時ト云
ニ、節角ガ在之。辺ト云ハ、
譬、室間云ウトテハ、礼間ヲ云
タ呈ノヨ。爰ヲ退歩荷擔ト云

亦那辺ト云イ、那時ト云、折角
アリ。那辺ト云ハ、タトエバ爰
ノ間ヲ云ヲウトデハ、礼ノ間ヲ
云タゾ。○亦那時ト云ハ、直室

サテ亦那辺ト云イ、那時ト云ニ
節角アリ。(82オ)那辺云ハ、タ
トヘハ室間云ドテハ、礼間云。
那時云ワ、直室中ヲサス。退歩

サテ亦、那時ト云イ、那辺ト云
節角アリ。那辺ト云ハ、(4ウ)
タトエバ室ノ間ヲ云ウドテハ、
礼ノ間ヲ云ウナリ。那時ト云ワ、

イ、洞上飽參手トモ云タゾ。サ
テ、那更ト云ハ、直ニ室中更ヲ
指シテ云タゾ。那辺那吋折角ヲ、
宏智和尚モ、楚与越如相似、
トヲセラレタゾ。又、那吋点処
ト云「ガ在ルゾ。ト云ハ、那吋
肝要トタノシマズ、全提トモタ
ヌ「ヨ。向上(25才)墮在セヌ
ク。向云タトテ、下タ「デハ無
イゾ。

透句ニ、紫極宮中烏抱レ卵。世尊
三昧世尊不レ識、迦葉三昧迦葉
不レ識。王々位不レ存。唯仏与仏、
乃能究尽。始覚本覚去休々。彩
漢舞レ丹青。主中主・異中異・
妙中妙・同中同、露柱懐胎、是
ヲ、那吋淵源ト云タゾ。正位ニ
居シテ其位ヲ知ラヌゾ。爰ヲ、
不識上トモ云タゾ。又、那返重上
大更トモ云タゾ。

ノ間ヲ云タゾ。亦、退歩荷擔ト
云ハ、直室中。フミ入テハ、
更ラニ弁セラレヌホトニ、邊リ
デ、道利ヲ心得ル。是ヲ、退
歩シテ荷擔ト云タゾ。亦、洞上
デハ、傍參ノ手ト云ク。然ル間、
那返ト那時ノ譚訛ヲバ、コレヲ
以テ云ク。○那返ニ点処ト云「
アリ。是ハ、那時ニモ死在セヌ
ゾ。向云タトテ、下タデハ無イ。

故、此ノ透リノ句タゾ。○紫極
宮中烏ス抱レ卵。○世尊三昧世
尊不知、——知。亦、王不
存王位。○主中主。○異中異。
○妙中妙。是則チ那時淵源。
ホトニ、五位居テ其ノ意ヲ知ラ
ヌヲ云ク。爰ヲ、不識情ト云タ
ゾ。是則チ那返一重ノ大更ク。

室中ヘフミ入テハ、更弁セラレ
ヌ。ソノ辺以、億劫裡心得、
退歩須荷擔ト云イ、亦洞上
傍參手共云ク。然間、那時那辺
トノ譚訛、宏知 楚 越 如
相似ト被仰タソ。サテ亦、那辺
モ点処ト云「カアルゾ。是ハ、
那時死在セヌ「ク。向云タハ、
下ツテハ無イソ。

爰透句多。紫極空中烏抱レ卵。
亦、世尊三昧不知世尊、迦葉三
昧不知迦葉。亦、王不存王位。
亦、唯仏与仏、乃能究尽。亦、
始覚本覚去休去・主中主・玄中
玄・異中異・妙中妙・同中同・
露柱懐胎(82ウ)己カ那時淵源
。王位居、其位不レ知ヲ云ク。
而間、爰不識上ト云ク。那辺一重
大事共云ク。

直ニ室中ヲ指ス。退歩カタン
トモ云ナリ。亦洞上デワ、傍參
ノ手トモ云ナリ。然ル間タ、那
辺ト那時トノ譚訛ヲ、宏智モ楚
越ノ如クニ相似リ、ト云タゾ。
サテ亦、那辺ニモ点処ト云「ア
リ。是ワ、那時モ死在セヌゾ。
向云タトテ、下ツタ「デワ無キ
ク。

故ニ、透ノ句多シ。〆紫極宮中
烏抱レ卵。世尊三昧世尊不レ知、
迦葉三昧迦葉不レ知。王不レ存
王位。唯仏与佛、乃能究尽。〆
始覚本覚去休々。〆彩鳳舞
丹青。〆主中主。〆玄中玄。〆
異中異。〆妙中妙。〆同中同。
〆露柱懐胎。是ガ、那時ノ淵源
ナリ。王位ニ居シテ、其ノ位ヲ
知ラヌヲ云ク。爰ヲ不識上共云
ナリ。那辺一重上ノ大更トモ云
ナリ。

△培芝和尚代ニ、金殿堂々重
幃深。此句ハ、以前注却ト一ツ
ク。サリナガラ、在処依テ、句
扱羊ガ在ルゾ。殿バカリデモ、
主ガナケレバ、取ラヌ理モ在ル
ゾ。又、主計リデモ、殿ガナケ
レバ、成ンゾ。処ニ依テ、殿計
リ、主計句ヲアツカウ「モ在ル
ゾ。サテ、是ハ、那边當頭ノ代
リナ呈ニ、殿ト主トヒツソロヘ
タ句ヲナサレタゾ。

然ル間ダ、古老代、金殿堂々重
幃深シ。此ノ句ハ、以前住シタ
人ク。乍去、在処仍テ、句ノ扱
カウ羊在リ。殿斗リデモ主ガナ
ケレバ、悪シキク。主計リデモ、
殿ガ無ケレバ、亦悪シキク。処
依テ、殿計ロヲ用ル羊ナ句ヲ扱
ウ「モアリ。然共、是ハ、那時
正當ヲ代ル間ダ、殿ト主ヲ引ソ
ロエテ有ル句ヲ代ルク。

而間、正悦和尚代、金殿堂々重
幃深。此句心共句以前住却スル
ク。サテ、在処依、句扱ウ羊モ
アリ。殿ハカリデ、主カナケレ
ハ、悪ク。主ハカリテ、殿ガナ
レハ、悪ク。而此、是那边正當
代アル間、殿ト主引ソロヘタ
ル句御代アルク。処々ニ依殿斗
主斗、句トル「モアリ。是ハ、
ツトヲクリヘフミツムルハ、
亦別運地力無イゾ。

然間、正悦和尚ノへ代ニモ、金
殿堂々重幃深。此ノ句ワ、已前
ニ注却スルナリ。去リナガラ、
在処ニ依テ、句ヲ扱ウ羊在リ。
殿計リテモ、主(5才)無ケレ
バ、悪シ。主計デモ、殿ガ無ケ
レバ、悪シ。処ニ依テ、主計ノ
句ヲ使ウ支モアリ。然レ共、是
ハ、那边正當ヲ御代有ルナリ。
殿ト主ヲ引ソロエテゴザアルナ
リ。

サテ又、那边退得這裡行李ト云
「ハ屋裡ヘツ、ト踏ミツムレ
バ、亦別ニ出ズ地ガナイニ依テ、
今時日用間ダニ出テ々、那边ヲ
退ゾイテ、這裡ニ行李スルゾ。
何ント行李シタゾ。ナレバ、柳
ギハ緑リ(25ウ)花ニハ紅イ、
烏ハ黒ク鷺ハ白ク、樵夫斧ヲ取
リ魚人ハ釣竿ヲ取り、僧ハ四
ツ緒袈裟ヲ掛ケ經ヲヨミ、俗ハ
甲冑ヲ對シタゾ。是ガ、這裡行

亦、那返退得這裏ト云支アリ。
是ハ、屋リエクツトツムレバ、
出ウズ地ガ無イニ仍テ、亦々、
今時日陽エ出ルク。ホトニ、柳
ギハ緑リ花ハ紅イ、烏ハ黒ク鷺
ハ白イゾ。樵夫ハ鉈斧ヲ取
リ、魚人ハ釣竿ヲ取り、僧ハ經
ヲヨム。俗ハ鋒ヲミガキ、弓箭
ニ對シ、戦イヲ作スク。是ハ即
チ、這裏デノ行裏ク。亦、元ノ
自己ナルク。今時デ或ハ門前

アルニ依、亦今日用エ出カ、那边
退リソイテ、這履行季シ羊
ク。何行秀シタソ。ナレハ、柳
ミトリ烏ハ黒花クレナイ(83才)
サギ白、樵夫斧トリ、漁夫釣竿
トリ、亦、僧經誦シ、俗鋒刀杖
タイシテ戦イヲナスカ、這裡行
履ク。亦、元ノ自位ニナルゾ。今
日三下テ、或ハ門前成レ市、錦上
布花。釘キリ鉄切、豎見シ
横見為ナルク。ト云テ、亦最初

亦那边退得、這裡行李ト云「ア
リ。是ワ、ツトヲ屋裡エ踏ミ
ツメレバ、亦去ウズ地ガ無ニ依
テ、亦今時日用ノ間エ出テ、那
辺ヲ退イテ、這裡テ行季ナリ。
柳ニワ緑リ花ニワ紅、烏ニワ黒
ク鷺ニワ白ク、樵夫斧ヲ取り、
漁人ワ釣竿ヲトリ、僧ワ經ヲヨ
ミ、俗ワ鋒・刀杖取テ戦ヲナス
ヲ云ナリ。是ガ、便チ這裡ノ
行季ク。此ノ時、亦、元自己ニ

李く。元ノ自己ニ還ヘツタリヨ。ト云テ、退得人ニ修行・會得ガ在ルデハ無イゾ。那边ヲ退得スレバ、御座ガ定ヌゾ。此人ノ徳用・和光ニモレタリハナイ。総ジテ位ノナイ人ゾ。是ヲ、三位超越人ト云タゾ。自己ニモ、智不到ニモ、那时ニモ、細密ノ心得ヲ多在之。在氏、余リニ舌頭地ニ拽間ダ、子細ニ注却セズ。洞上デハ、回互不回互、宛轉傍参義ガ、肝要く。三位ノ中速ニ沙汰スルく。諸方実参実語可有レ之。不レ可レ守ニ一隅。綿密唱へ雖多、分明不レ徹間ダ、鈍根ノ志ヲ以テ、不レ殘ニ心底ニ流布スル物乎。真豊以后、培芝和尚之参ヲ引合セテ、有僧付与く。今接待心口サシヲ以テ、養天禅伯付与畢。于时寛永二年正月吉旦 意九拜。

成^シ市^ヲ、錦上鋪^ニ花、釘^{クキ}削^リ鉄切^ヲリ、豎説横説シテ、亦、最初ノ當着^ニ逢ウゾ。洞上デハ、是ヲ肝要トスル也。是則チ回互宛轉ノ儀也。是ニ増ス三位ハ無キく。(14ウ)

當著^ニアラヌゾ。「^(墨ケシ)」故^ニ、洞上テワ、是カ肝要也。回互宛轉義也。三位共大畧^ニ此分く。諸方^(悟カ)扱イ実語^(悟カ)実参多シトイヘ氏、分明不^ニ徹底證^セ掘^タ間、鈍根ノ阿師住^(野カ)却^ス之。志フカイニ依^ニ、為^レ知心底、不^レ殘^ニ仏祖骨^(髓カ)隨^ニヲ棒^(棒)スル者く。可秘々々、一大事く。

成ルナリ。今時テ、或ハ門前ニ成^シ市、錦上鋪^ニ花。釘ヲ切り鉄ヲ切テ、豎説シ横説シテ為ニナルく。最初ノ當着ワアラヌゾ。故ニ、洞上デワ、是ガ肝要ナリ。回互宛轉ノ義ナリ。三位共ニ、大畧ワ此ノ分ナリ。諸方ノ拵イ、実語・実参雖多、分明不^ニ徹証^ニ(7ウ)ガ間、鈍根ノ阿師注^ス却^ス之。志シ依^ニ深、以^ニ小智^ヲ、心底ヲ不^レ殘^ニ棒^ヲ之。是若シ他見アラバ、仏法ノ名加尽ン者ナリ。大叟々々。終く。